



世の光 (Ⅲ)

目次

世に対する神の伝道プログラム	5
神の歩哨	10
エリヤの時代の改革	15
疑うように誘惑される	20
奉仕への召し	26
平和の預言者	33
ヨナ	38
世俗的人々の思いに届く驚くべき方法	43
四人の成功した伝道者たち	48
イスラエルにおける大危機	54
技能のある書記官エズラ	59
断固とした改革者ネヘミヤ	64
前進する改革!	69

セブンスデーアドベンチスト改革運動世界総会安息日学校部 (P.O.Box 7240 Roanoke, Virginia 24019-0240, U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.90, No.3

編集&発行:
S D A改革運動日本ミッション

〒368 - 0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607 - 1

TEL : (0494) 22-0465

FAX : (0494) 40-1045

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
support@4angels.jp

イラスト : Illustrations: Good Salt on front cover; Map-Resources on pp. 4, 46, and back cover.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

まえがき

今年の第一期および第二期は神の民の歴史から伝道における教訓を研究しました。第二期の終わりでは、ユダの南の王国の歴史を見ながら、伝道における教訓を学びました。今期では戻って、北王国の経験から伝道の教訓を見ていきます。わたしたちはまた神が捕囚の時代にご自分の民を通して昔の世界にご自身を表そうとされたその努力をも見ていきます。

「イスラエルによって神のご品性があらわされて、人々が神に引きつけられるようになることが、神のみこころであった。福音の招待は、全世界に伝えなければならなかった。犠牲的礼拝の教えによって、国々の前でキリストが高められるのであった。そして、キリストを仰ぎ見るすべての者は生きるのであった。カナン人ラハブやモアブ人ルツのように、偶像礼拝から真の神の礼拝に立ち帰る者は、みな、神の選民に結合するのであった。イスラエル人の数が増加するにつれて、彼らはその国境を広げていき、ついには、彼らの国が全世界を包含するようになるのであった。

しかし、古代のイスラエルは神のみこころを成就しなかった。主は言われた。「わたしはあなたを、まったく良い種のすぐれたぶどうの木として植えたのに、どうしてあなたは変って、悪い野ぶどうの木となったのか。「イスラエルは空しいぶどうの木、彼は自分自身のために実を結ぶ。」(エレミヤ 2:21、ホセア 10:1 英語訳) ……

主はモーセによって、不忠実の結果は何であるかを神の民に示された。神の契約を守ることを拒否することによって、彼らは自分たち自身を神の生命から絶ち切り、神の祝福が彼らのところに達することができないようにするのであった。彼らがこうした警告に心を留めたときには、ユダヤの国には豊かな祝福が与えられた。そして、彼らを通じて周囲の国々にも与えられた。しかし、その歴史において、彼らは神を忘れ、神の代表者としての彼らの大いなる特権を見失った時のほうが多かった。」(国と指導者〔主のぶどう畑〕4, 5)

わたしたちは、ある意味では彼らの追放は彼らにとって祝福となったことを見ます。なぜなら、それによって神の民だと公言する多くの人々が悔い改めを見出したからです。そしてそれによって異教の諸国の前で真理のために証する機会を得ました。事実、ある者たちは自分の光を為政者や諸王の前でも輝かし、自分の行動や言葉において神のご品性を表したのです。こうした事実をも包含した教訓は、効果ある伝道者になるために研究する人々にとって、特に重要な教訓です。

わたしたちの天父の祝福が、すべての安息日学校の教師と生徒にありますように。

世界総会安息日学校支部

第一安息日献金

東ヨーロッパの出版の働きのために

「聖書の真理を記した出版物が秋の木の葉のように撒き散らされるようにしなさい。魂の救い主、このお方を掲げなさい。このお方を高く、なおも高く掲げなさい。」(天国で323)

わたしたちの時代の預言者 E・G・ホワイトを通して語られたこれらの言葉は、実に時機にかなっています。

東ヨーロッパの兄弟姉妹も同じ願い、同じ大志を持っています。

70年の国家による強制的な無神論に耐えたために、世界のこの地域の信徒たちは自由の価値を知っています。わたしたちはなお自由を持っていますが、まもなく来ようとしている終わりのしるしを見ます。宗教的な自由を制限する法律はすでに地域全体を通じて施行されています。この神が与えてくださった自由を用いて、兄弟姉妹はさまざまな都市や村へ出て行き、トラクトや他の霊的な書物を配布しています。わたしたちは、トラクトや冊子、すなわちキリストへの道、安息日か日曜日か、さまざまな健康の書物、子供たちの安息日学校教科、またその他の書き物を何十万と印刷する必要があります。わたしたちはこれらの書物を、様々な言語で印刷するために最善を尽くしています。なぜなら、このユニオンは、かつてソビエト連邦に属していた諸国のほとんどを含んでいるからです。

「わたしたちの印刷物は至る所へ及ぶべきである。それらが数多くの言語で発行されるようにしなさい。第三天使のメッセージは、この媒体を通して伝えらるべきである。」(教会への証 9 巻 62)

わたしたちは皆さんに資金的に助けてくださるようお願いいたします。領域は広大で、この地域の教会は裕福ではなく、必要とされる何千という費用を賄うことができないからです。

どうかこの機会を用いて、この広大な地域の大事な出版の働きを、みなさんの惜しみない捧げ物と祈りをもって覚えてください。捧げる人の手が寛大でありますように!皆さんの援助に感謝します。

東ヨーロッパ連合の兄弟姉妹より



世に対する神の伝道プログラム

「多くの民は来て言う、『さあ、われわれは主の山に登り、ヤコブの神の家へ行こう。彼はその道をわれわれに教えられる、われわれはその道に歩もう』と。」(イザヤ 2:3)

「イスラエルが神のご品性をあらわすことによって人々が神に引きつけられることが神のみ旨であった。」(キリストの実物教訓 268)

参考文献： 国と指導者上巻 2-6
患難から栄光へ上巻 5-7

日曜日

6月29日

1. 神の民の前の大いなる責任

a. 天が真の神の知識をもって祝福したいと望んだ最初の大国はどこでしたか(詩篇 135:9)。

「アブラハムの子孫……はエジプトに移されたが、それは彼らが……神のみ国の原則をあらわすためであった。ヨセフの高潔さと、全エジプト国民の生命を救ったあの驚くべき働きは、キリストの生涯を代表したものであった。モーセをはじめ、その他多くの人々は、神をあかしする証人であった。」(キリストの実物教訓 264)

b. 王や廷臣、また一般大衆が霊的な闇の中にいることを選んだという証拠は何でしたか(出エジプト記 5:1, 2)。

「もし、エジプト人が主の命令に逆らうならば、主は、それを彼らの偉大な人々の知恵がどんなにむなしく、彼らの神々の力がどんなに弱いものであるかを知る機会にしようとした。」(人類のあけぼの上巻 299)

「もしわたしたちが誇りをまくなれば、誇りを刈り取るようになる。もし強情をまくなれば、強情を刈り取るのである。」(彼を掲げよ 266)

2. イスラエルのための神のご計画

- a. イスラエルの子らが200万を超えて数えられる時に、またそのエジプトからの救出の時に及んで、どのような重要な使命が委ねられましたか(ヨハネ 4:22; 申命記 4:6-8)。

「神はご自身の品性を人々に現すために、イスラエルの民をお選びになった。神はその民がこの世の救いの井戸となるようにお望みになった。彼らには天来のことば、神のみこころの啓示がゆだねられた。」(患難から栄光へ上巻 5)

- b. どのような目的のために、神はイスラエルを戦略的な場所、すなわち「万国の中に」据えられましたか(エゼキエル 5:5)。

「神は神の民が世界の光となるように計画なさったのであった。生活の実際行動にあらわされた神の律法の栄光が、彼らから輝き出なければならなかった。こうした計画を遂行するために、神は選民が地上の諸国の中の戦略的位置を占めるようになさったのである。

ソロモンの時代に、イスラエル王国は北はハマテから南はエジプト、また、地中海からユフラテ川にまで及んだ。この地域の中を昔ながらの通商路が数多く通っていた。そして、遠国からの隊商が絶えず行き来していた。……

ソロモンはまわりの国々に対する燈台として立てられた国家の首長の地位におかれていたので、神と神の真理を知らない人々に光を照らすため……に、神から与えられた……影響力とを用いなければならなかった。」(国と指導者上巻 44, 46)

- c. 神のご計画を挫折させるために、闇の権力はどのように働きましたか(列王記上 11:1, 2; 伝道の書 2:8, 9; 10:1)。

「神がソロモンとすべての真のイスラエル人の心に植えつけられた伝道の精神は、商業主義の精神に取って換えられた。多くの国々との接触によって与えられた機会は、自己の勢力を増強するために用いられた。」(同上 46)

3. 神の憐れみと正義

- a. なぜ世に伝道するために、他の国々はふさわしくなかったのですか（レビ記 18:24, 25; 申命記 9:4）。世の住民たちは洪水後、次第にどの教訓を忘れてしまいましたか（創世記 6:5, 11, 17）。
- b. 多くの異教諸国の間に広まっていたどの状態により、彼らの破滅は必然的なものとなりましたか（ローマ 1:19, 21, 23-25）。

「多くの国々において、年をとって自分の世話ができなくなった親は、捨てられたり、殺されたりした。…… 神の性質をゆがんで考えたために、異邦民族は、神の恵みを得るには人身御供が必要だと信ずるようになった。そして、最も恐るべき残酷がいろいろな形の偶像礼拝のもとで行なわれてきた。その一つは、偶像の前で自分の子供たちに火の中をくぐらせる風習であった。…… 最もみだらな忌むべき儀式が、異邦の宗教の一部とされた。神々自身が不道徳なものとしてあらわされ、その礼拝者は、低級な欲望をほしいままにしていた。不自然な悪徳が広く行なわれ、宗教的な祭りのときにはだれもが公然と不道徳なことをした。」（人類のあけぼの上巻 397, 398）

- c. 神はまず警告や悔い改めへの招きを送ることなしに、破滅をもたらされますか（エゼキエル 18:21, 23; アモス 3:7）。神の忍耐を尽きさせ、不治だとみなされる人々に、何が起こりますか（ペテロ第二 3:5-7）。

「神に対して憎しみを抱き、真理と聖潔を憎んでいた者たちが、ここで、天の群れに加わって賛美の歌を歌うことができるであろうか。果たして彼らは、神と小羊の栄光に耐え得るであろうか。いや、それはできないのである。彼らには、天国のために準備をするように幾年もの恵みの期間が与えられていた。にもかかわらず、彼らは純潔を愛するように心の訓練をしなかった。彼らは、天国の言語を学ばなかったので、今となってはもうおそすぎるのである。神に反逆した生活が、彼らを天にふさわしくない者にしてしまった。」（各時代の争闘下巻 292, 293）

4. 神の憐れみと正義(続)

- a. 神の憐れみが、引き返すことのできない地点にまで達していない様々な国家に対して、なおも延ばされていることが、どのようにわかりますか。このご計画の下に、アモリびとには、なお何が与えられていましたか(創世記 15:16)。

「イスラエルの初期の時代に、この世の国々は墮落した習慣によって、神についての知識を失った。彼らは、以前に神を知っていた。しかし、『神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなった』のである(ローマ 1:21)。それでも神は、憐れみから彼らの存在を抹殺されなかった。神は選ばれた人々を通して彼らが再び神を知るようになる機会を与えようとなさった。」(患難から栄光へ上巻 5, 6)

- b. 神がニネベを扱われた方法から、わたしたちはどの教訓を学ぶことができますか(ヨナ 3:10; 4:10, 11)。ヨナはどのような伝道精神を持っていましたか。

「ニネベは、邪悪ではあったが、荒布をまとい、灰の中に座して悔い改めたので、神は町を滅ぼすことをおやめになった。それを知ったヨナは、神の驚くべき恵みをまず第一に喜ぶべきであった。しかし、彼は、そうせずに、自分が偽預言者であると思われるのではないかとばかり心配したのである。」(国と指導者上巻 238)

- c. 諸都市で行われているすべての伝道の働きに、神はどのような励ましのメッセージを送られますか(使徒行伝 18:9)。

「大都会における神の使命者たちは、救いのよきおとずれを伝える一方において、当面しなければならぬ罪悪、不正、墮落などについて失望してはならないのである。……救霊の働きに従事している者は、多くの者が神のみ言葉の中の神の勧告に耳を傾けないであろうが、全世界が、光と真理、長く耐え忍ばれる救い主の招きを拒むのではないことを忘れてはならない。」(同上 244)

5. まだ憐れみが混じっている神の裁き

- a. 終わりの時のために用意されている裁きの主な二つの効果を挙げなさい（イザヤ 24:4-6; 26:21, 9）。

「人間の力ではいやすことのできない悲しみが、この世界に起こる時が、近づいている。神の霊が取り去られつつある。海にも陸地にも、次々と急速に災害が起こる。地震、大竜巻、火事、洪水による破壊、人命財産の大損害などを、なんと度々耳にすることであろう。一見、こうした災害は、人間の力を超えた自然の猛威が突発的に起こしたものであると思われるであろう。しかし、その中であって、神のみこころを悟ることができるのである。神は、こうした方法によって、人々に、彼らの危険を自覚させようとしておられるのである。」（国と指導者上巻 244）

- b. 救いを望む人々を救うために、神はそのみ手をなお伸ばしながら、何と仰せになりますか（イザヤ 55:6, 7）。

「暴力と犯罪に満ちたどの町においても、正しく教えらるるならば、イエスの弟子になることができるものが多くいるのである。このようにして、幾千の人々に救いの真理が伝えられて、キリストを個人的救い主として受け入れるようになるのである。」（同上）

個人的な復習問題

1. 神はなぜアブラハムの子孫をエジプトから連れ出されたのですか。
2. 神がイスラエルを戦略的に「万国の中に」据えられた方法から、今日わたしたちが学ぶべきことは何ですか。
3. 闇の権力は神の伝道のご計画を挫折させるためにどのように働きましたか。
4. ヨナの書は、神が悪人を滅ぼすよりも救うことを喜ばれることをどのように教えますか。
5. 主はわたしたちが自分たちの周囲の人々について、何を悟るよう望んでおられますか。

神の歩哨

「それゆえ、人の子よ、わたしはあなたを立てて、イスラエルの家を見守る者とする。」
(エゼキエル 33:7)

「神の奥義の管理職は、シオンの城壁の見張り人として立つべきである。……キリストの大使たちは自分たちの不忠実を通して、自分自身の魂と自分たちの言うことを聞く人々の魂を失うことがないように注意すべきである。」(教会への証 4巻 403)

参考文献： 各時代の希望中巻 88

日曜日

7月6日

1. シオンの城壁の上にいる見張り人たち

a. 忠実な見張り人と、不忠実な見張り人の違いは何ですか (エゼキエル 33:2-6)。

「昔、歩哨たちはしばしば城壁に配置された。そこは、優位な地点で、防衛しなければならない重要な地点を見渡し、敵の接近を警告することができた。中にいるすべての者の安全は彼らの忠実さにかかっていた。決められた間隔で、彼らは互いに呼び交わし、みな目覚めていること、まただれも害を受けていないことを確かめることが要求された。無事で元気な叫びか、警告のいずれかが、次々と伝えられ、叫びが都市をめぐるまで各自はそれを繰り返すのであった。」(福音宣伝者 14)

b. わたしたちは個々のクリスチャンとして、神も救いもない人々の魂について、なぜ案じる必要があるのですか (エゼキエル 33:7-9)。

c. 主は滅ぼすことを求めておられますか、救うことですか (エゼキエル 33:11)。

2. 確かな音か、不確かな音か

- a. 見張り人がラッパを吹いても、はっきりした音を出さないとき、何が起こりますか(コリント第一 14:8)。

「自分のためらいと遅延を通して、魂が減びるままに放置され、彼らの血が自分の手に求められることがないように、見張り人たちは注意しなさい。」(教会への証 5巻 716)

- b. 悪いしもべの象徴の下に、キリストはどのように不忠実な歩哨に類する多くの人々を描写なさいましたか(マタイ 24:48-51)。

「この悪いしもべは『主人の帰りがおそい』と心の中で思っている(ルカ 12:45)彼は、キリストがおいでにならないとは言わない。彼は主の再臨という考えを嘲笑しない。しかし心の中で、またその行為とことばによって、主の来臨が遅いと宣言する。彼は、ほかの人たちの心から、主はすみやかにこられるという確信を追い出す。彼の影響で、人々の間に独断的で不注意な遅れが生じる。人々の世俗心とまひ状態がますますひどくなる。世俗的な欲望、墮落した思いが心を占領する。悪いしもべは、酔っぱらいといっしょに飲み食いし、世の人々といっしょになって快楽を求める。彼は仲間のしもべたちを打ちたたいて、主人に忠実な者たちを責め、非難する。彼は世俗の人たちにまじる。彼は世俗の人々と同じように罪を犯す。」(各時代の希望下巻 103)

- c. パウロはこれらの歩哨たちについて、どのような警告を与えましたか(テサロニケ第一 5:3)。

「キリストの来臨はにせ教師たちの不意を襲う。彼らは、『平和だ無事だ』と言っている(テサロニケ第一 5:3)。エルサレムが陥落する前の祭司たちと教師たちのように、彼らは教会が世俗的な繁栄とほまれを受けることを期待する。彼らは時のしるしをこの事の予表として解釈する。しかし靈感のことばには何とされているだろうか。『突如として滅びが彼らをおそって来る』(テサロニケ第一 5:3)。全地に住んでいるすべての者たちに、この世をわが家としているすべての者たちに、神の日はわなのようにやってくる。それは忍び足の盗人のように彼らにやってくる。」(同上 104)

3. 無能な歩哨の特徴

a. 不適任な見張り人をどのように特徴づけることができますか (イザヤ 56:10-12)。

「民に危険を警告するために見張り人の立場を占めているある人々は、自分たちの見張りをやめて、安穩としている。彼らは不忠実な歩哨である。彼らは狡猾な敵が要塞に入り、彼らの側で、神が築き上げるように命じたものを取り壊すのに成功しているかたわらで、何もせずにいる。彼らはサタンが経験の浅い者や疑うことを知らない者が欺いているのを見るが、それをあたかも特別な関心がなく、懸念していないかのように、静観している。彼らは特に危険を感知しない。警告をあげる理由をみとめない。彼らにとっては万事がうまくいっているように見え、民にその不義を示し、イスラエルの家にその罪を示すために率直な証によって担われる警告を聞いても、それについて忠実なラッパの音をあげる必要性をみとめない。これらの譴責や警告は、こうした眠たげで安楽を愛する歩哨たちの静けさを妨害するので、彼らは喜ばない。彼らは口にしなくても心の中で、『これはまったく必要のないことだ。それは厳格すぎるし、厳しすぎる。これらの人々は不必要に妨害し、興奮させ、わたしたちに少しの休息も静けさも与えたくないに見える』と言うのである。」(教会への証 2 卷 440)

b. 靈的に盲目な見張り人の働きに関して、わたしたちはどの警告を心に留めておくべきですか (マタイ 15:14)。主のしもべは、再臨運動の歴史において、そのような一人の歩哨をどのように述べていますか。

「ある人々は自分自身の不信によってあまりにも盲目になっていたために、B 兄弟の精神を識別することができなかった。……彼は神がご自分の民に与えてくださった真理の光のうちを歩むことを拒み、光のうちを歩みたいと望む人々を妨害した。

彼は神の戒めを守る民の確立された信仰に関して疑いと不信をほのめかすことを誉れだと感じる。かつては喜んだ真理がいまや彼にとって暗闇である。そして彼が自分の方針を変えない限り、様々な教派の見解を混ぜたものに陥りながら、そのどれにも完全には同意しないものになる。彼は自ら区別された教会になる。……サタンが他の多くの人々にしてきたように、確かに彼を体なる教会から導き出し、欺瞞と誤謬の道へ導き入れている。」(同上 3 卷 441)

4. 資格あるしもべの特徴

- a. キリストの忠実なしもべの特徴を述べなさい (テモテ第一 4:12-16; テトス 2:7, 8)。

「シオンの城壁の上に立つ見張り人が、非常に神の近くに生きて、このお方の御霊の印象を受けやすいものとなり、神が彼らを通して罪びとの危険を告げ、彼らに安全な場所を指し示すことは、彼らの特権である。神に選ばれ、献身の血に印されて、彼らは差し迫った危険から男女を救い出さなければならない。忠実に彼らは不義の確かな結果について同胞仲間に警告し、忠実に教会の利益を守らなければならない。どのようなときも彼らは自分たちの警戒をゆるめてはならない。

彼らの働きは、存在の全機能を働かせることを要求する働きである。ラッパのような声を上げ、決して揺らぐ不確かな音を出してはならない。報酬のために働くのではなく、もし福音を宣布することに失敗すれば自分たちは災いであることを自覚して働くのである。」(福音宣伝者 15)

- b. キリストはわたしたち個人にどの働きを委ねられましたか (マタイ 24:45; テモテ第二 4:2, 5)。

「各地に散在する地の住民のなかには、バアルにひぎをかかめぬ者がある。夜だけ現れる空の星のように、これらの忠実な人々は、暗きが地を覆い、やみがもろもろの民を覆うときに輝き出るのである。異教のアフリカ、ヨーロッパ、南米のカトリックの国々、中国、インド、海の島々、地のあらゆる暗黒の隅々に、神は、なお、暗黒のただ中に輝き出る選ばれた人々の星空を保っておられる。彼らを通して背信した世界に、神の律法に従うとき得られる人格を改変する力を、明瞭に示しておられるのである。彼らは今でさえ、あらゆる国民、国語、民族のなかにあらわれている。夜が暗ければ暗いほど彼らは明々と輝くのである。……

であるから、今日だれもイスラエルの数を数えることなく、すべての者は肉の心、暖かい同情心、キリストのような心をもって失われた世界の救いのために手をさしのべよう。」(国と指導者上巻 156,157)

5. なんとこの喜びがあることであろう！

- a. 贖われた者が天へ着くとき、互いに何を認めますか（コリント第一 13:12）。彼らは自分たちがキリストへ導いた人々の口から何を聞きますか。

「贖われた者たちは自分の注意を上げられた救い主に向けた人々と会い、認める。彼らはこれらの魂と何と祝福された言葉を交わすことであろう！『わたしは世にあって神も希望もない罪人でした。そこへあなたが来てわたしの注意を唯一の希望である尊い救い主に向けてくれたのです……』。他の人々は言うであろう、『わたしは異教の地にいる異邦人でした。あなたは自分の友人や快適な家庭を後にして、わたしにどのようにイエスを見出し、このお方を唯一のまことの神として信じるかを教えてくださいました。わたしは自分の偶像を取り除き、神を礼拝しました。そして今、わたしはこのお方と顔と顔を合わせてお会いしています。わたしは救われました。永遠に救われて、わたしの愛するお方を眺めているのです。』」（教会への証 6 卷 311）

- b. キリストは彼らに何と宣言されますか（マタイ 25:34-40）。

「他の人々は自分たちの感謝を、飢えている者に食べさせ、裸の者に着せてくれた人々に感謝を述べるであろう。『わたしの魂が絶望によって不信のうちに縛られているとき、主はあなたをわたしに遣わしてくださいました。希望と慰めの言葉を語り、わたしに身体的な必要のために食べ物を持ってきて、神のみ言葉をわたしに聞き、わたしの霊的な必要に目覚めさせてくださいました。あなたはわたしを兄弟のように扱ってくださいました。』」（同上）

個人的な復習問題

1. 忠実な見張り人と不忠実な見張り人の違いを述べなさい。
2. 不忠実な歩哨についてのキリストの説明は何でしたか。
3. どれほど多くの人々が、教会への証 3 卷 441 にある B 兄弟のわなに陥る危険のうちにいますか。
4. わたしたちは信仰の特徴をどのようにもっと厳密に反映することができますか。
5. 天で言い表される大いに報われる感謝の言葉を述べなさい。

エリヤの時代の改革

「エリヤは、わたしたちと同じ人間であったが、雨が降らないようにと祈をささげたところ、三年六か月のあいだ、地上に雨が降らなかった。それから、ふたたび祈ったところ、天は雨を降らせ、地はその実をみのらせた。」(ヤコブ 5:17,18)

「神は〔イスラエルの〕人々をその誤った考えから自由にし、自分たちの命と万物を負っているお方に対する自分たちの責任を理解するよう導こうとしておられた。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1913 年 8 月 21 日)

参考文献： 国と指導者上巻 87 - 122

日曜日

7月13日

1. 悔い改めと改革への召し

- a. 神はイスラエルがバアルとアシタロテの祭司たちに支配されていたときに、エリヤにどのような使命をお委ねになりましたか。彼はアハブ王に何と言いましたか (列王記上 17:1)。

「アハブに対する神の言葉は、イゼベルと彼女の祭司たち、そしてバアルとアシタロテに従うすべての者に、彼らの神の力を試す機会を与え、もしできることならば、エリヤの言葉が誤りであることを証明する機会を与えた。」(国と指導者上巻 91,92)

- b. 神が裁きを通して、王、指導者、そして民に悔い改めと改革へ招くために語ろうとされたときに、異教の祭司たちはどのように国民をだまされた状態のままにしようとしたか。

「指導者たちはバアルの力に信頼し、エリヤの無益な預言の言葉を見做すように人々に訴えた。祭司たちは、なおも、雨が降るのはバアルの力によるのだと主張した。」(同上 91)

2. 命か死の香り

- a. 面と向かって会ったときに、王はどの質問をもってエリヤを譴責しようとしたか（列王記上 18:17）。真理を受け入れることを拒む人々から神の使者たちは何を予期しなければなりませんか。

「神の預言者たちは、かくれた罪を明るみに出すので、背信のイスラエルから憎まれた。預言者エリヤは、アハブ王の秘密の不義を忠実に責めたので、彼はアハブ王から敵とみなされた。同様に、今日キリストのしもべ、すなわち罪を責める者は、嘲笑と拒絶に出会う。」（各時代の希望下巻 26）

「人々は、自分たちの立場を聖書によって支持することができないのがわかると、多くの者はなんとかしてそれを支持しようと決意し、一般受けのしない真理を擁護して立つ者たちの品性や動機を、悪意をもって攻撃するのである。各時代においてとられてきたのは、この同じ方針であった。エリヤはイスラエルを悩ます者と言われ、エレミヤは裏切者と言われ、パウロは神殿を汚す者と言われた。その当時から今日に至るまで、真理に忠誠を尽くそうとする者は、治安を妨害する者、異端者、分離者と非難されてきた。」（各時代の争闘下巻 183）

- b. わたしたちは大多数の人々から、彼らに真理が提示されたときでさえ、何を予期することができますか（イザヤ 59:14, 15; テモテ第二 3:10-12）。これはわたしたちにどのように影響しますか。

「預言の確実な言葉をなかなか信じようとしない群衆は、その時代の罪を大胆に譴責する者への非難を、なんの疑いもなく受け入れる。この精神は、ますます増大している。……

こうしたことを考えるとき、真理の使者の義務は何であろうか。真理を伝えても、人々はその主張を避けるか、または反抗するに至るだけの場合がよくあるから、真理は伝えるべきではないと結論すべきであろうか。そうではない。反対を引き起こすからと言って、神の言葉のあかしをさしひかえる理由は、初期の改革者たちに無かったと同様に今もないのである。……

真理を受け入れ、それを伝えるにあたっての大きな障害は、そこに不都合と恥辱が含まれていることである。……しかし、このことも、キリストの真の弟子たちを思いとどまらせはしない。彼らは、真理の受けがよくなるまで待ったりなどしない。彼らは、自分たちの義務を確信して、進んで十字架を負う……のである。」（同上 184, 185）

3. 耳ざわりのよい説教の危険

- a. アハブ王がエリヤをイスラエルを悩ます者と非難したとき、預言者はどのように応じましたか（列王記上 18:18）。

「エリヤは自分の潔白なことを意識して、アハブの前に立ち、自分を弁解しようとも、また、王にへつらおうともしないのである。また、かんばつは、ほとんど終わったというよい知らせによって、王の怒りを避けようともしないのである。彼は何の謝罪もしないのである。彼はいきどおりと神のみ栄えのための熱意に燃えて、アハブの告発を彼に帰……するのである。」（国と指導者上巻 109）

- b. 悔い改めと改革を呼び求めるのに、どのような種類の説教が必要とされていますか（イザヤ 58:1）。耳ざわりのよい説教は何がわるいのですか。

「よく聞く耳ざわりのよい説教は、心に永続的印象を与えない。ラッパは音をはっきり出さない。人々は、神の言葉の明白で鋭い真理によって、心が切り裂かれなない。」（同上）

「神が平安をお語りにならないのに、平安、平安と叫んで人を喜ばせるこうした牧師たちは、神の前に心を低くして、彼らの不誠実と道徳的勇氣の欠乏についてゆるしを求めるべきである。彼らが、彼らにゆだねられた言葉をなめらかにしたのは、彼らが隣人を愛したためではなくて、彼らが、放縦で、安逸を愛していたからである。……

神は、エリヤ、ナタン、バプテスマのヨハネのような人々、すなわち、結果がどうなるうとも、忠実に神の言葉を伝える人々を召しておられる。また、所有するすべてのものを犠牲にすることを要求されても、勇敢に真理を語る人々を、神は召しておられるのである。」（同上 110, 111）

- c. アハブの告発は、いつ神のしもべたちに対して繰り返されますか（黙示録 13:15-17）。

「民衆の怒りは偽りの非難によってかきたてられるので、彼らは神の使者たちに対して、背信のイスラエルがエリヤに対してとったのと同じような態度をとるであろう。」（各時代の大争闘下巻 353）

4. 二つの勢力の間の闘い

a. アハブを譴責した後、エリヤは何を命じましたか (列王記上 18:19, 20)。

「[列王記 18:19 参照]。命令はあたかも主のみ前に立っているかと思われた人が発したのである。そしてアハブは、預言者が王であって、自分は家来であるかのように直ちにそれに従った。急使たちが国に送られ、エリヤおよびバアルとアシタロテの預言者たちのところに集合するように伝えた。」(国と指導者上巻 113)

b. エリヤは民の前にどのような挑戦をしましたか (列王記上 18:21 (上句))。

「エリヤは集まったイスラエルの群衆に囲まれながら、アハブと偽りの預言者たちと顔を合わせて立っている。彼は主の栄誉を擁護するためにただひとりで現れたのである。恐ろしい災害を引き起こした当人として全国の非難を受けている彼が、今イスラエルの王とバアルの預言者たち、軍人たち、取り巻く群衆の前に、一見何の防備もなく立っている。しかし、エリヤはただひとりではない。天の保護天使たち、力に満ちた天使たちが、彼の上にも彼のまわりにもいるのである。」(同上 114, 115)

c. エリヤは集まっていた群衆からどの答えを得ましたか (列王記上 18:21 (中句))。

「主は神の働きの危機における無関心と不忠実を憎まれる。全宇宙は善悪の大争闘の最後の場面を、言葉では表現することができない深い関心をもって眺めている。神の民は永遠の世界の境界に近づいている。彼らにとって天の神に忠誠であることより重大なことがほかにあろうか。神は各時代を通じて道徳的英雄を持っておられたが、今もなおヨセフ、エリヤ、ダニエルのように、自分たちが神の特選の民であることを認めるのを恥としない人々を持っておられる。」(同上 115, 116)

5. イスラエルの現世における保護

- a. 切迫した対決において、エリヤは「火をもって答える神を神としましょう」と提言したとき、民はどのように言いましたか(列王記上 18:22-24)。
- b. 人々が異教の祭司たちは欺瞞者であることがわかった後、エリヤは何をしましたか(列王記上 18:30-34)。それから、彼が主にご自身を表してくださるよう祈ったとき、何が起こりましたか(列王記上 18:36-38)。
- c. 対決の終わりに、天からの火が犠牲と水を焼き尽くすのを民が見たとき、彼らは何をしましたか。また、まことの唯一の神について何といいましたか(列王記上 18:39)。エリヤは偽りの教師たちに関して、何を命じましたか(列王記上 18:40)。

「バアルの祭司たちは、……バアルの預言者でありたいのである。こうして彼らは滅びの時が熟したことを示した。悔い改めるイスラエル人は、彼らにバアル礼拝を教えた者の惑わしから保護されるように、エリヤはこれらの偽りの教師を滅ぼす指示を主から受ける。」(国と指導者上巻 122)

個人的な復習問題

1. エリヤに対するアハブに関連して、大争闘の工程を述べなさい。
2. 不信心な群集に直面したときのわたしたちの義務を説明しなさい。
3. 今日、なぜ耳ざわりのよいメッセージは特に危険なのですか。
4. 近い将来、いつアハブの告発は神のしもべたちに対して繰り返されますか。
5. わたしたちは偽りの宗教教師たちに対して、どのように警告されていますか。

疑うように誘惑される

「主よ、もはや、じゅうぶんです。今わたしの命を取ってください。わたしは先祖にまざる者ではありません」(列王記上 19:4)

「逃亡者として人里から遠く離れ、精神が苦い失望に打ち砕かれて、〔エリヤは〕二度と人の顔を見たくないと願った。」(ビュー・アズ・ハルト 1913年10月16日)

参考文献： 国と指導者上巻 123-144

日曜日

7月20日

1. エリヤの信仰が厳しくテストされる

a. 偶像礼拝者の女王イゼベルは、偽りの預言者たちが殺されたことを聞いて、どのようなメッセージをエリヤに送りましたか (列王記上 19:1, 2)。

「アハブが、偶像礼拝の預言者たちを殺したことをイゼベルに話したときに、心かたくなで改める気持ちのない彼女は激しく怒った。イゼベルは、カルメル山上において神が摂理のみ手をもって働かれたことを認めず、なお反抗的態度をとって、大胆にエリヤの死を要求するのであった。」(国と指導者上巻 126, 127)

b. カルメル山での対決において不屈の勇気を表した後、エリヤはどのように人間の弱さを表しましたか (列王記上 19:3)。

「エリヤは彼のいるべき場所を逃げ出してはならなかった。彼は主の栄誉を擁護することを彼にお命じになったこのお方の保護を仰ぎ求めて、イゼベルの威嚇に立ち向かわなければならなかった。彼は自分が信頼している神が、女王の怒りから彼を保護してくださることを、使者に告げるべきであった。」(同上)

c. 神のみ事業におけるすべての働き人は、どの訓告を真剣に考慮すべきですか (コリント第一 10:12)。

2. 失望する

- a. すっかり失望して、エリヤは神への祈りのうちにどのような願いをしましたか（列王記上 19:4）。神のみ事業におけるすべての証人は、何に耐えることを予期しなくてはなりませんか（コリント第二 4:8, 9）。

「だれでも時には、激しい失望と絶望に陥る時があつて、心は悲しみに満たされ、神が今でも地上の子供たちの慈悲深い保護者であられることを信じ難い日々があるものである。心は悩みにさいなまれて、生きているよりは死んだほうがましだと思われる時がある。そうした時に多くの者は、神に対する信頼を失って、疑いと不信の奴隷になるのである。」（国と指導者上巻 130）

「主のしもべたちはあらゆる失望を予期しなければならない。彼らは敵の怒りや侮辱や残酷さによってばかりでなく、友人や助け手の怠惰、矛盾、なまぬるさ、裏切りによつてもまた試されることになる。……神のみ働きが繁栄することを望んでいように見える人々でさえ、自分たちの敵の中傷や大言壮語や脅迫を聞いたり、話したり、半分信じたりすることによつて、主のしもべたちの手を弱めることであろう。」（クリスチャンの奉仕 239, 240）

- b. 失望の治療法は何ですか（ルカ 21:36; テサロニケ第一 5:8, 17）。使徒パウロは、失望をよせつけないためにどのように戦いましたか（コリント第二 12:10）。

「気落ちしている者に対して、信頼できる救済策がある。それは信仰と祈りと行いである。信仰と活動は、日毎に増大する確信と満足とを与える。あなたは不吉な予感に恐れを感じ、失望落胆に陥ろうとしているであろうか。一見絶望的で、最悪の事態にあつても恐れてはならない。神を信じなさい。神はあなたの必要を知っておられる。神はすべての力を持っておられる。神の無限の愛とあわれみは、消耗することがない。神はその約束をなし遂げられないのではないかと恐れてはならない。」（国と指導者上巻 133,135）

- c. ご自分のしもべの思慮のない要求をかなえる代わりに、神はどのように彼の働きが終わっていないことを示されましたか（列王記上 19:5-8）。

3. 鋭い質問

- a. 洞窟の中に避難した後、主はエリヤに何とお尋ねになりましたか（列王記上 19:9）。質問の中にはどのような譴責が含まれていましたか。

「〔主なる万軍の神〕はあなたをケリテ川に送り、その次にはザレパテのやもめのところに送った。わたしはあなたにイスラエルに帰って、カルメル山上で偶像礼拝の祭司たちの前に立つことを命じた。そして、王の車をエズレルの門まで導く力をあなたに与えた。しかしこんなにあわててあなたを荒野に逃亡させたのは、いったいだれなのか」（国と指導者上巻 136,137）

- b. 魂の苦々しい経験の中で、エリヤはどのような不平を言いましたか（列王記上 19:10）。この経験を通して神はご自分のしもべにどの教訓を与えておられたと思いますか。

「最も効果的に神のみこころを達成するのは、何も最も華々しい活動を行う働きであるとは限らないことを、神はエリヤに教えようとなされたのである。

エリヤが主の啓示を待っていた間、嵐が吹きたけり、雷光がひらめき、焼きつくす火が通り過ぎた。しかし神は、こうしたすべてのものの中にはおられなかった。その次に静かな細い声が聞こえた。そして預言者エリヤは、主のみ前で頭を覆ったのである。彼のつぶやきはなくなり、心は和らげられ、鎮められた。今彼は、静かに神に信頼して固く寄り頼んでいれば、必要な時にはすぐに助けが与えられることを知ったのである。」（同上 137, 138）

- c. エリヤは主がどのようにご自分の力を表されることを期待していましたか（列王記上 19:11, 12）。エリヤは魂を改心させる主の方法を考えたとき、ついに何を理解しましたか（ゼカリヤ 4:6）。

「人々の心に罪を悟らせて悔い改めに導くのは、神のみ言葉の最も博学な講演であるとは限らない。人々の心に触れるのは雄弁や論理ではなくて、聖霊の芳しい影響力である。聖霊は静かにしかも確実に働きかけて、品性を改変し啓発するのである。人の心を変える力があるのは、神の聖霊の静かな細い声である。」（同上 138）

4. 断固とした改革の始まり

- a. 主はエリヤにどのような質問を繰り返されましたか。そしてエリヤはどのような不平を主に繰り返しましたか(列王記上 19:13, 14)。神はエリヤに、どのようにイスラエルにおける悔い改めない反逆者たちが罰せられることを保証されましたか。(列王記上 19:15-17)

「主はエリヤに、イスラエルの悪人たちは、罰せられずにはすまされないと答えられた。偶像を礼拝する国家を罰して神のみこころを達成するために、特別な人々が選ばれなければならなかった。すべての者が、真の神の側につき機会を与えられるために、厳正な処置が取られなければならなかった。エリヤ自身がイスラエルに帰り、改革を起こすために、他の人々とともに重荷を負わなければならなかったのである。」(国と指導者上巻 138)

- b. 他の人々と共に、だれがエリヤを助けて開始された改革を促進する者として選ばれましたか(列王記上 19:19-21)。
- c. エリヤの時代に蔓延していた背教と今日この世に広まっている背教の間に、どのような類似点を見出すことができますか(ペテロ第二 3:3-5)。

「義の標準である神の律法は[この時代に]もうその効力を失ったと言われている。すべての真理の敵は欺瞞的力をもって働きかけ、神の占めるべき位置に人間の制度を設け、人類の幸福と救いのために定められたものを彼らに忘れさせようとしている。

しかしこの背信は、広がっているとは言っても、普遍的なものではない。世界中のすべての人が不法で罪深いのではない。すべての者が敵の側に加担したのではない。神は、バアルにひざをかかめない者を幾千人も持っておられる。また、キリストや律法についてもっと深く理解しようと熱望している者、イエスが速やかに来られて罪と死の支配を終わらせてくださることを切望している者を多く持っておられる。バアルを知らずに礼拝してる者も多くあって、聖霊はなお彼らに働きかけているのである。

このような人々は、神を知り、神のみ言葉の力を知った人々の個人的な援助を必要としている。このような時に、神の子供はみな活発に他人を助けていなければならない。」(同上 139,140)

5. 今日わたしたちの伝道の責任

- a. エリヤが自分ひとりだけが残されたと不平を述べたとき、主は彼に何を明らかになさいましたか (列王記上 19:18)。

「神の刑罰が背信した人々の上にくだっていたときに、エリヤはイスラエルの数を数えて、何と奇妙なことをしたことであろう。彼は主のがわには、ただひとりしか数えることができなかった。」(国と指導者上巻 157)

- b. 「神は、バアルにひぎをかかめない者を幾千人も持っておられる」、また「聖霊はなお彼らに働きかけている」という事実をかんがみるとき、わたしたちの義務は何ですか (マタイ 28:19, 20)。

「各地に散在する地の住民のなかには、バアルにひぎをかかめない者がある。夜だけ現れる空の星のように、これらの忠実な人々は、暗きが地を覆い、やみがもろもろの民を覆うときに輝き出るのである。…… 神は、なお、暗黒のただ中に輝き出る選ばれた人々の星空を保っておられる。彼らを通して背信した世界に、神の律法に従うとき得られる人格を改変する力を、明瞭に示しておられるのである。…… 夜が暗ければ暗いほど彼らは明々と輝くのである。……

であるから、今日だれもイスラエルの数を数えることなく、すべての者は肉の心、暖かい同情心、キリストのような心をもって失われた世界の救いのために手をさしのべよう。」(同上 156)

個人的な復習問題

1. エリヤは大いなる道徳的力をあらわした後に、どのように霊的な臆病さをあらわしましたか。
2. わたしたちは各自キリストのための証人となるように召されているのですから、すべての信徒はどの訓告を真剣に沈思すべきですか。
3. 失望に対する治療法は何ですか。
4. エリヤが自分ひとりだと不平を述べたとき、神は何と宣言なさいましたか。
5. バアルにひぎをかかめたことのないすべての人に対するわたしたちの義務は何ですか。

第一安息日献金

コンゴ民主共和国の伝道学校のために

コンゴ民主共和国はアフリカ大陸における最大の国の一つで、人口はおよそ 7500 万人です。この中央アフリカの国家は鉱物資源が豊富で、その中にはコバルトや、産業用と宝石用のダイヤモンド、金、銅などがあります。北は中央アフリカ共和国と南スーダンに面し、南はザンビアとアンゴラに面し、西はコンゴ共和国及びわずかに大西洋湾岸に面し、東はウガンダ、ルワンダ、ブルンジ、そしてタンザニアに面しています。



コンゴ民主共和国において実践されている主な宗教は、カトリック、プロテスタント、そしてイスラム教です。様々なキリスト教の宗派があります。事実、コンゴ民主共和国はアフリカにおいて二番目にクリスチャン人口の比率が高く、96%です。完全な宗教の自由があります。フランス語が公用語です。

1972 年に、地元の働き人たちの 12 年にわたるボランティア的な努力によって SDARM の働きが最初にコンゴ民主共和国 (当時のザイル) に組織されました。当時真の安息日の原則を守る立場をとることは深刻な財政的困難を被ることを意味していましたが、その働き人たちは妥協しようとしませんでした。

今日、コンゴにおけるわたしたちの教会には 7 つのミッションがあり、合計でおよそ 1500 人の信徒がいます。そのうち、40% は青年です。世は青年たちをむなしい哲学で養っていますが、わたしたちは彼らに堅実な聖書の真理で養う必要があります! この目的を果たすために、良い伝道学校コースが必要とされています。わたしたちは青年たちに非常な関心を持っているため、このようなプロジェクト—フランス語を話すわたしたちの青年を大いに益することのできる強い伝道学校を建設すること—と踏み出さずにいられませんでした。

何よりも、わたしたちは彼らの訓練後、これらの青年たちが、ご自分の命をカルバリーで与えてくださったキリストへの大きな愛のゆえに、真の伝道者また真理の擁護者となるようにと祈っています。

そこで、世界中のすべての信徒の皆さんに、祈りと資金をもってこの重要な計画を援助して下さるようお願いいたします。主がこの非常に重要な伝道プロジェクトを直接的に間接的に支えるすべての人を豊かに祝福して下さいますように!

アフリカ地域担当書記

奉仕への召し

『手をすきにかけてから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくないものである。』
(ルカ 9:6)

「神の恵みにあずかるすべての者に、主は人のために働く任務をお定めになっている。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング 120)

参考文献： 国と指導者上巻 185-196

日曜日

7月27日

1. 「あなたを召された方は忠実である」
 - a. 神の預言者にどのように神聖な召しをもたらされましたか(列王記上 12:22; 歴代志上 17:3; ルカ 3:2)。真の預言者と自任の預言者の違いを説明しなさい(エレミヤ 14:14, 15; 23:21, 32)。
 - b. 預言的な召しはどのようにエリシャにもたらされましたか(列王記上 19:16)。この召しの前に彼はどのような特質を表していましたか(列王記上 19:19)。

「預言者への召しがエリシャに与えられたのは、彼が父のしもべたちと畑を耕していたときであった。

彼は自分の最も手近にある仕事をしていた。彼は人々の間で指導者となる能力もあれば、また常に快く仕える謙遜な気持ちも兼ね備えていた。彼は静かで温和な性質であったけれども、精力的で着実な精神も持ち合わせていた。彼は高潔忠実で、神に対する愛と畏敬の念を持っていた。そして、日常生活のいやしい仕事の中で、確固とした目的と気高い品性を養い、常に恵みと知識を増し加えていった。彼は家庭における務めを果たして、父親と力を合わせているうちに、神とともに働くことを学んでいたのである。

エリシャは小事を忠実に行うことによって、より重い信任を受ける準備をしていた。……彼は奉仕することを学んだ。そして彼はこれを学びながら、いかに教え導くかをも学んだのである。これはすべての者が学ばなければならない教訓である。神はどのような目的をもって、われわれに訓練をお与えになるのかはだれにもわからない。しかし、小事に忠実であることがより大きな責任を負わせられるのにふさわしい証拠であることは、だれにも明白である。」(国と指導者上巻 186)

2. 神の召しの確かさ

- a. すべての神のしもべがそうであるように、エリシャは聖なる召しが自分に及んだときに、どのような要素を考慮しなければなりませんでしたか（列王記上 19:20, 21; ルカ 14:28）。

「エリシャは事前によく状況を見きわめて、召しを受けるか拒絶するかを自分で決定しなければならなかった。……

奉仕の祭壇にすべてを献げるようにという召しは、すべての者に与えられる。われわれすべてのものは、エリシャのように奉仕することも、また、持っているものを皆売るようにも求められてはいない。しかし、神は、われわれが神への奉仕をわれわれの生活の第一のものとし、この地上において、神の働きを進展させるために、一日に何かを必ず行うことを求めておられるのである。……神は各自の献げ物をお受けになる。必要なのは生涯とそのすべての影響力とを献げることである。このような献身をする者は、天の神の召しを聞いて、従うのである。」（国と指導者上巻 188,189）

- b. エリヤとの交わりの終わりにおいて、エリシャの唯一の要望は何でしたか（列王記下 2:9）。

「エリシャは世的栄誉や地上の偉人たちの間の高い地位を求めなかった。彼が渴望したのは、今まさに天に移される栄誉にあずかろうとしているエリヤに豊かに注がれていた聖霊が豊かに与えられることであつた。彼は、神が彼を召されたイスラエルにおける地位に彼を適したものにするのは、エリヤに宿っていた聖霊以外にないことを知っていた。」（同上 194,195）

- c. わたしたちは自分の義務、能力、機会をなおざりにすることによって、何を失うかもしれませんか（マタイ 25:28, 29 下句）。一方、もしわたしたちが忠実に正直に、すでに神から受けている「資本」を用いるならば、何が起こりますか（マタイ 25:29 上句）。

「イエスはわたしたちに命の道を指し示し、真理の光を表し、聖霊を与え、わたしたちの完全に不可欠なものはすべて豊かに与えてこられた。」（クリスチャン教育の基礎 218）

3. 学ぼうとするエリシャの自発的な態度

- a. 使用人の義務を喜んで果たそうとするエリシャの態度から、わたしたちは何を学ぶべきですか (列王記下 3:11 下旬)。

「最初、エリシャに要求されたのは、大きな仕事ではなかった。普通一般の務めが、なお、彼の訓練を構成する要素であった。彼はその師、エリヤの手に水を注いだと言われている。彼は主がお命じになることを何でも喜んで行った。そして、そのたびに、彼は謙遜と奉仕の教訓を学んだ。彼は、預言者の個人的な付き添いとして、小事を忠実に行った。それとともに、彼は、日ごとに強い信念をもって、神が彼に命じられた任務に専心した。」(国と指導者上巻 190)

- b. 神のしもべは、より高い責任を遂行するのを推進できるようになる前に、何を示さなければなりませんか (ルカ 16:10-12)。

「神はどのような目的をもって、われわれに訓練をお与えになるのかはだれにもわからない。しかし、小事に忠実であることがより大きな責任を負わせられるのにふさわしい証拠であることは、だれにも明白である。人生の行為は、すべて、品性をあらわす。」(同上 186)

- c. 多くの人々の考えることや行動することは、どのように一タラントしか受けなかった怠惰なしもべの態度に似ていますか (マタイ 25:14, 18, 24-28)。

「何か直接宗教的な働きに携わっていないという理由で、自分たちの生涯はなんの役にも立たず、神の国の進展のために何もしていないと感じる者が多い。もし彼らが何か偉大なことをすることができれば、どんなに喜んでそれをするのであろう。しかし、彼らはただ小さい事しかできないから、何もしないでいてよいと考える。これは誤りである。人は、伐採、開墾、耕作などの日常の普通の仕事をしていながら、神のために活発な奉仕に携わることができるのである。子供をキリストのために訓練する母親は、講壇に立つ牧師と同様の働きを神のためにしているのである。」(同上 187)

4. 伝道の仕事には青年の訓練が含まれている

a. 能力のある忠実な牧師の最も重要な義務の一つは何ですか (テモテ第二 2:1, 2)。

「伝道の仕事はみ言葉の説教よりもはるかに多くの事を含んでいる。それはエリヤがエリシャを訓練したように、青年たちを一般の職業から召し出して、まず初めは小さな責任を負わせ、彼らが力と経験を得るに従って大きな責任を負わせるというふうにして、神の働きにおいて、責任を負うように訓練することである。……若い未経験な働き人は、こうした経験のある神のしもべたちと実際に一緒に働いて、訓練を受けなければならない。こうして、彼らは重荷を負うことを学ぶのである。

若い働き人にこのような訓練を与える人々は、高貴な任務に携わっている。主ご自身が彼らの努力に協力なさるのである。そして、献身の言葉が語りかけられ、熱心で敬神深い働き人と密接に交わる特権が与えられた青年たちは、この機会を最善に利用しなければならない。神は彼らを神のご用のために選び、彼らとその働きにさらに適した者になることができる場所に彼らを配置して、彼らに榮譽をお与えになった。そして、彼らは、謙遜、忠実、従順で、喜んで犠牲を払う精神をもたなければならない。もし彼らが神の訓練に従い、神の指令を実行し、神のしもべたちを彼らの助言者として選ぶならば、彼らは、正しく、高い原則に従った着実な人々となり、神から責任を負わせられるに足る人々となることができる。……

エリシャが召されてから後、数年の間、エリヤとエリシャとはともに働き、若者は、日ごとに彼の働きに対する準備を深めた。」(国と指導者上巻 190-192)

b. テモテの訓練にあたり、使徒パウロほどの点を強調しましたか (テモテ第二 1:5; 3:14-17)。

「〔テモテの〕家庭生活の敬神と感化は、安っぽい種類のものではなく、純潔で分別があり、誤った意見に汚されていないものであった。彼の家庭の道徳的感化は実質的なもので、気まぐれではなく、衝動的でもなく、変わりやすいものでもなかった。神のみ言葉がテモテを導く規則であった。……彼の家庭の指導者は神と協力して、若い時期から彼に負わされた重荷を担うようこの青年を教育した。」(SDA バイブル・コメント [E・G・叔父・コメント] 7 巻 918)

5. 教えることと学ぶこと：学ぶことと教えること

- a. どのようにエリシャの信仰は、エリヤと旅をする間に試されましたか（列王記下 2:5, 6）。

「サムエルが建設した預言者の学校は、イスラエルの背信の時代に衰微してしまっていた。エリヤはこうした学校を再建し、若い人々が律法を大いなるものとし、かつ光栄あるものとする教育を受けられるようにしたのである。これらの学校のうち、ギルガルとベテルとエリコにあったものが記録に記されている。エリヤが天に携え上げられる直前に、エリヤとエリシャは、これらの教育の中心地を訪問した。神の預言者は、以前に訪れたときに与えた教訓を、今、また繰り返した。……彼はまた、彼らの教育のあらゆる面が、簡素を特徴とすべきであることの重要性を彼らの心に印象づけた。このようにして彼らは、初めて天の型を受け、主の道に従って働くために出て行くことができたのである。……」

エリシャが預言者エリヤに従って学校を巡回したときに、彼の信仰と決心とがもう一度試みられた。……そこで、神の人のしもべは、試みられても彼のそばを離れなかった。」（国と指導者上巻 192,194）

- b. わたしたちはみな、これらの二人の忠実で勤勉な神の働き人の成功した協力から、何を学ぶことができますか（コリント第一 3:8, 9）。

「神のみ使は、伝道地にいるしもべたちが共に集まり、共にひざまずき、涙と心の悔悟をもって祈るとき、また彼らがだれの働きであろうと働きについて語ることができるとき、はるかにもっと喜び、わたしたちに引きつけられるのである。」（説教と講和 2 巻 15）

個人的な復習問題

1. エリシャはエリヤが昇天する直前に何を求めましたか。
2. 機会をなおざりにする危険を説明しなさい。
3. わたしたちがすでに持っているものをよく用いることによって、どれほどのものを得ることができますか。
4. より大きな責任を受ける前に、わたしたちは何をあらわさなければなりませんか。
5. エリヤとエリシャの協力から、わたしたちは何を学ぶことができますか。



2014年8月9日に

豊かな生涯メディアプロジェクトのために

特別献金が集められます

世界中の親愛なる兄弟また友人がたへ

「メディア」は世界歴史のあらゆる時代において現代の真理を人類に伝えるために、神の使命者たちによって用いられてきました。

ノアの時代は、差し迫る破滅について世を警告し、人々を救いに招くために、口頭メディアが用いられました。神聖な導きの下に、モーセもまた、出エジプトの運動の中で、口頭および筆記の伝達(彼の時代のメディア)を用いました。同じ資源がソロモンの時代にも用いられました。当時イスラエルの領域は「昔ながらの通商路が数多く通っていた。そして、遠国からの隊商が絶えず行き来していた。こうして、ソロモンとその国民には、万国の人々に、王の王の品性をあらわし、彼らに神をあがめて従うように教える機会が与えられていた。」(国と指導者上巻 46)。

他の例ははキリストによって用いられた方法です。「〔キリストは〕あちらこちら旅をなされたその合間には、「自分の町」として知られていたカペナウムにお住みになった(マタイ 9:1)。そこはダマスコからエルサレム、またエジプト、地中海へと通じる道に位していたので、救い主の働きを中心としては好適地であった」(同上 47)。

印刷された最初の書物は、聖書でした。これにより救いのメッセージがより容易に群衆に伝えられるようになりました。再臨運動のはじめに、神はジェームズ・ホワイトに現代の真理を小さな紙面で発行するように指示されました。そこから、光

の流れが世界中に輝き出るのでした。

この思想に基づいて、世界総会によって改革運動のテレビ放送スタジオを設立することが承認されました。放送は三つの言語、英語、ポルトガル語、スペイン語でなされます。世界総会はこのプロジェクトがブラジルで発展すべきことを決定しました。そこで、南ブラジル連合本部の全体の地所から、このプロジェクトのために一部が取り分けられ、特に「豊かな生涯メディアプロジェクト」のために建設が始まりました。

新しい建物の面積は、およそ1200平方メートルで、二つの撮影ス

タジオと一つのオーディオ録音スタジオ、さらに通訳、編集、管理事務所のための部屋があります。建物の建設は2012年8月に始まり、最初のフェーズはすでに完成しました。これまでのところ、建設費用は、ブラジル全土の1500人もの兄弟姉妹また友人たちと共に世界総会によって支払われてきました。彼らはこの大プロジェクトの完成のために月々自分たちの献金や捧げ物をしています。

第二ステージ、最後の完成部分がいまや始まりましたが、この部分は計画の最も高価な部分を含むため、より大きな額の資金が必要です。建物の完成のほか、このプロジェクトを完成させるためには、スタジオの運営を始めるための必要機材をすべて購入する必要があります。

わたしたちはこのプロジェクトの目標は、まだ改革のメッセージが届いていない場所に現代の真理の知識を伝えることであり、今日得られる中で、最も強力で先進的な伝達手段を通して永遠の福音を宣布するためであることを強調しなければなりません。ですから、この世界規模の伝道プロジェクトに惜しみない献金を捧げることによりこの大仕事にあずかる機会が皆さんにも与えられています。この事業の結果はただ現世と永遠にわたってのみ見られることになります。……わたしたちは、皆さんが神様の祝福して下さった資金の一部をとりわけ、惜しみなくこの記念的なプロジェクトの完成のために捧げてくださるようお願いいたします。先立ってお礼申し上げます。



平和の預言者

「どうぞ、あなたの霊の二つの分をわたしに継がせてください。」(列王記下 2:9)

「主がみ摂理のうちに、ご自分が知恵を授けてこられた人々をご自分の働きから除くことがふさわしいとご覧になるとき、このお方はもし彼らの後継者がご自分を見て助けを求め、このお方の道に歩むならば、彼らを助け、強めてくださる。」(争闘と勇氣 223)

参考文献：国と指導者上巻 203-231

日曜日

8月3日

1. エリシャの預言者としての働き

- a. エリヤがユダとイスラエルで改革の働きをなした後、何が起こりましたか (列王記下 2:11, 12)。
- b. 要約すると、エリシャはエリヤと過ごした時間によってどのように益を受けましたか (列王記下 2:2)。彼らに任命された働きにはどのような基本的な違いがありましたか (列王記上 17:1; 列王記下 2:20-22)。

「エリシャはエリヤの後継者として、注意深く、忍耐強い教えによって、イスラエルを安全な道に導くように努力しなければならなかった。彼はモーセ以来の最大の預言者との交わりによって、彼がやがてひとりでしななければならない働きの準備が与えられた。」(国と指導者上巻 192)

「エリシャの働きは、ある点においては、エリヤの働きと非常に異なっていた。エリヤには断罪と審判の言葉がゆだねられた。彼の働きは恐れを知らぬ譴責の声となって、王と国民とに呼びかけて、彼らをその悪の道から立ち返らせることであった。エリシャの働きはもっと穏やかな任務であった。彼の働きはエリヤが始めた働きを盛り立て強化し、人々に主の道を教えることであった。靈感は彼が預言者のともがらに囲まれて、人々と個人的に接触し、彼の奇跡と教えとによって、いやしと喜びをもたらしたことを描いている。」(同上 203)

2. スリヤ人でさえ知った!

- a. スリヤの王が自分の統治における裏切りを疑ったとき、これがどこからもたらされているものかをどのように解明しようとしましたか(列王記下 6:8-11)。イスラエルの王に与えられた情報の実際の源はだれでしたか(列王記下 6:12)。
- b. スリヤの王は自分を悩ませる難問を解決しようと、どのような命令を出しましたか。斥候(たち)が預言者の居場所を探し出したとき、王は何をしましたか(列王記下 6:13, 14)。

「エヒウの後継者エホアハズは、スリヤとの長期戦によって、ヨルダンの東の町々をいくつか失った。一時はスリヤびとが全国を支配するかのよう思われた。」(国と指導者上巻 221)

「そして、神は神が選ばれた使者をお見捨てにならなかった。スリヤの侵略が行われたある時、スリヤの王は、エリシャが敵の計画をイスラエルの王に通告したことを理由に、彼を殺そうとしたのである。スリヤの王は家来たちと評議して『しかじかの所にわたしの陣を張ろう』と言った。主はこの計画をエリシャに示された。」(同上 222)

- c. 神のしもべたちが深刻な困難のうちにいるとき、あるいは自分たちの命が脅かされているとき、どの約束をわがものと主張すべきですか(詩篇 34:7)。

「神の民が窮地に陥り、一見、逃げ場がないかのように思われるときに、ただ神だけが彼らの頼りでなければならぬ。」(同上 223, 224)

「天の父はわたしたちが想像さえできぬ多くの道を備えられている。神の働きを最も高いものとする法則を受け入れる者は、いろいろな困難が消滅し、平らな道が開けてゆくのを発見する。……

最悪の状態とみえる暗黒の時代に神を信じなさい。」(ミニストリー・オブ・ヒーリング 465, 466)

3. 盲目によって撃たれる

- a. 恐れたエリシャのしもべから、どのようなメッセージが主人にもたらされましたか（列王記下 6:15）。エリシャは彼を落ち着かせるために、どのような答えをしましたか（列王記下 6:16）。

「神のしもべと武装した敵兵の軍勢との間には、天使たちの軍勢がいて、彼らを取り囲んでいた。天使たちは大いなる力をもって下ってきたが、それは滅ぼすためでも、人からの尊敬を強要するためでもなくて、主の弱い無力な人々のまわりに陣を置いて仕えるためであった。」（国と指導者上巻 223）

- b. エリシャの答えは、どのような論争の余地のない真理を教えてくださいか（ローマ 8:31）。

「世界の人口に比べれば、神の民は、常にそうであったように、ごく小さな群れであろう。しかし彼らが、みことばに示されている真理に立つならば、神は彼らの逃れの場となって下さる。彼らは全能の神の広い盾のもとに立つのである。神は常に多数を占めておられる。」（患難から栄光へ下巻 296）

- c. エリシャがスリヤ軍を取り扱った方法から、わたしたちは思慮深く何を沈思すべきですか（列王記下 6:17-20）。

「意志をもって行った一つの不義の行為、あるいは苦々しさ、ねたみ、嫉妬、あるいは邪推は、神の御霊を消し、あなたの心から真の幸福を追い出す。……

邪悪な働き人に対する憎しみでさえ、あなたの判断をゆがめ、あなたは悪に善を報いるキリストの働きを行う者となることがない。あなたは罪を嫌悪をする一方で、キリストがご自身の血という代価を支払われた人々の魂を愛すべきである。

復讐を願う思い、あるいは墮落した罪深い人類であるわたしたちに向かってイエスが働かされたようなやさしくあわれみ深い愛以外の感情は何でも、魂を傷つけ、天においてわたしたちに不利に記録されるのである。」（原稿 21 巻 164, 165）

4. 賢明な人々は平和を作ろうと努める；愚かな人々は戦争を引き起こす

- a. エリシャがイスラエルの王に与えた助言から、わたしたちは何を学ぶべきですか（列王記下 6:21-23）。敵の武装を解除するのに最善の方法は何ですか（ローマ 12:20）。

「わたしたちは親切への気質を培っていない。すべて自分自身にとってやりやすい方法になることを望んでいるのである。しかし、各自にとって最も重要な質問は、どのようにして自分自身の計画を人の計画に逆らって実行することができるかではなく、どのようにして毎日キリストのために生きる力を持つことができるかであるべきである。キリストはわたしたちが永遠の救いを得ることができるよう地上に来て、ご自分の命を与えてくださった。このお方はわたしたち一人ひとりをついに天の雰囲気の中で包み、わたしたちが世にキリストの宗教を尊ぶ模範を残すことができるようにしたいと望んでおられる。」（ローマ・リング・メッセージ 602）

- b. イスラエル人がますます主から遠く向かった後、何が起こりましたか。申命記 5:9 にあらかじめ述べられていた裁きは、どのようにスリヤの諸王の時代に彼らに下りましたか（列王記下 6:24, 25）。
- c. サマリヤにおける飢饉が王と民を絶望的なところまでに追いやったとき、何が起こりましたか（列王記下 7:1-9, 16, 20）。

「神がスリヤびとにイスラエルをむちうつことをお許しになったのは、誤りに陥ったイスラエルを神が愛されたためであった。神がエヒウを起こして邪悪なイゼベルとアハブの全家を殺されたのは、道徳力の弱い人々を神があわれまれたからであった。神のあわれみ深い摂理によって、バアルとアシタロテの祭司たちが除かれて、彼らの異教の祭壇が破壊されたのである。知恵に富んでおられる神は、もし誘惑が除かれるならば、異教を捨てて、その顔を天に向けるようになる者があることを予見された。災禍が次々に彼らの上にくだることを神が許されたのは、このためであった。神の刑罰には、あわれみが混じっていた。神は、神のみこころが達成されたときに神を求めることを学んだ人々のために、形勢を一変されたのである。」（国と指導者 上巻 221, 222）

5. わたしたちにとって重要な教訓

- a. エリシャはその生涯の終わりに、イスラエルの王に何を教えようと思いましたか(列王記下 13:14-17)。
- b. 預言者は、若い王が教訓を理解したことをどのように示すことを期待しましたか(列王記下 13:18, 19)。

「これは、すべて信任の地位にある者のための教訓である。神が何かの働きを達成するために道を開き、成功の確証をお与えになるときに、選ばれた器は約束された成果をもたらすために全力をつくさなければならない。働きを推進するために示す熱心と忍耐に相応した成功が与えられるのである。神は、神の民がたゆまず努力して、その分を果たすときのみ、奇跡を行うことができになる。神は、神の働きに献身した人、道徳的勇氣のある人、魂を熱愛する人、冷えることのない熱意をもった人を招いておられる。こうした働き人は、どんな働きも困難とは思わず、どんな状態も絶望とは考えない。彼らはひるむことなく働き続けて、一見敗北と思われることを輝かしい勝利とするのである。牢獄の壁、あるいは、殉教の死が待っているようにも、彼らは動揺することなく、神のみ国の建設のために神と共に働くのである。」(国と指導者上巻 228,230)

個人的な復習問題

1. 神はわたしをたった今ご自分のためにエリヤのようなタイプの証人となるように召しておられるでしょうか。それともエリシャのようなタイプでしょうか。
2. 神がエリシャの時代にお与えになったように、今日、わたしたちにどのような神聖な洞察力を与えようと望んでおられるかを説明しなさい。
3. 王自身の敵意に満ちた意図とは逆に、エリシャは彼にどのような助言を与えましたか。それはなぜでしたか。
4. わたしたちが今日自分たちの状況の中で、エリヤがスリヤの軍勢と取り扱った方法を反映できるいくつかの例を挙げなさい。
5. ヨアシに教えられた霊的な成功のための変わらない方法を説明しなさい。

ヨナ

『立って、あの大きな町ニネベに行き、これに向かって呼ばわれ。彼らの悪がわたしの前に上ってきたからである。』（ヨナ 1:2）

「ニネベの住民に警告するために与えられた任務においてヨナに課された責任は実に大変大きなものであった。しかし、彼に行くようにお命じになったお方は首尾よくご自分のしもべを支え、成功を与えることがおできになるのであった。」（ビュー・アット・ワールド 1913年12月4日）

参考文献： 国と指導者上巻 232-246

日曜日

8月10日

1. 「大きな町ニネベ」

- a. ヨナがニネベに遣わされた時代、その道徳的な状態は、どのようなものでしたか（ナホム 3:1）。

「ニネベは、その物質的に繁栄すると共に、犯罪と不正の中心地であった。……

しかし、ニネベは、悪に染まったとは言っても、全く罪悪に満ちてしまったのではなかった。『すべての人の子らを見』られるかた、そして、『もろもろの尊い物を見』られるおかたは、その町の多くの人々が、より良くより高尚な何物かを得ようとしており、もし生ける神を知る機会が与えられれば、その悪い行いを捨てて、神を礼拝するようになることを、ごらんになった（詩篇 33:13; ヨブ 28:10）。そこで、神は、神の知恵をもって、間違いようのない方法で、ご自分を彼らに現し、できることならば、彼らを悔い改めに導こうとされた。」（国と指導者上巻 232,233）

- b. 聖霊の届く範囲にいる魂の数を考えて、ソドムとニネベの町を比較しなさい（創世記 18:32; ヨナ 4:11）。今日わたしたちにまで、どの警告がごだましていますか。

「ソドムの罪はわたしたちの時代にも繰り返されており、地はその住民の下に破壊され、墮落している。しかし、今日の悪の中で最悪なものは、力のない信心のかたちである。大いなる光を持っていると公言している人々は、不注意で無関心な人々の中に見出され、キリストのみ事業は友だと公言する者の家で傷つけられている。救われない人々は、その惰眠から目覚め、ラッパで確かな音を出そうではないか。なぜなら、万物の終わりは間近だからである。」（サインズ・オブ・タイムズ 1893年10月16日）

2. ヨナの信仰が試される

- a. ニネベの人々を悔い改めへと招くためにだれが任命されましたか。そして悪魔はどのように彼が疑い、ためらい、ついには神の召しを拒もうとするよう誘惑しましたか(ヨナ 1:2, 3)。

「ヨナは、この任命の困難さと、一見不可能に思われるところから、この召しが賢明かどうかを疑うように誘惑された。人間的見地からするならば、あの高慢な町に、このような使命を宣言しても、何の益するところもないように思われた。彼は、自分の仕えている神が、全知全能の神であることを、一時忘れたのである。彼が、なおも、ためらい、疑っているうちに、サタンは、彼を失望に陥れてしまった。ヨナは、大きな恐怖心に襲われて、『タルシシへのがれよう』した。……

ヨナは、この任命が与えられて、大きな責任を負わせられたのであった。しかし、彼に行けと命じられたおかたは、彼のしもべを支え、彼に成功を与えることがおどきになるのであった。もしヨナが、何の疑いもはさまずに従ったならば、彼は多くの苦い経験に遭うこともなく、豊かに祝福されたことであろう。」(国と指導者上巻 233)

- b. ヨナが神に与えられた責任から無事に逃れたと思って寝ているときに、何が起こりましたか(ヨナ 1:4, 5)。

「召しが最初に与えられたときに、もしヨナが立ちどまって冷静に考えたならば、彼に負わせられた責任を逃れようとする彼の努力が、どんなに愚かなものであるかを知ることができたのであった。彼の狂的逃亡は、なんの妨げも受けずに、長く続くことは許されなかった。」(同上 234)

- c. 眠っている預言者を目覚めさせた船長の譴責から、すべての人は何を学ぶべきですか(ヨナ 1:6)。嵐に対する最後の手段として、水夫たちは何をしましたか(ヨナ 1:7)。

「しかし、義務の道から離れ去った人の祈りは、助けをもたらさなかった。」(同上)

3. み摂理的な状況を通しての伝道

- a. 船員たちがヨナを尋問したときに、預言者は自分の身分をどのように明かしましたか（ヨナ 1:8, 9）。
- b. これらの水夫たちはどのようにして、最終的に真の神を知るようになりましたか（ヨナ 1:10-16）。
- c. わたしたちはしばしば証言するためのどのような機会と特権を失いますか。なぜですか（ペテロ第一 3:15）。

「もし主の働きの必要が、資金と感化力をもっている人々の前にしかるべき光のうちに提示されるなら、これらの人々は現代の真理のみ事業を前進させるために多くのことをすることができる。神の民は世と無関係でいることを選んでさえいなければ活用できたはずの多くの特権を失ってきた。

神のみ摂理のうちに、わたしたちは日々改心していない人々と接触する。ご自分の働きが急速に進むように、神はご自身の右手によって、わたしたちの前に道を備えておられる。このお方との共労者として、わたしたちにはなすべき聖なる働きがある。わたしたちは高き所にいる人々のために魂の苦しみをもたなければならない。わたしたちは彼らに婚宴に来るようにとの恵み深い招きを差し伸べなければならない。」（管理職への勧告 186）

「多くの人々は、もし機会が与えられるなら大きなことができるのに、いつも何かが彼らを邪魔しているとうぬぼれている。み摂理は彼らが望むことをできないように彼らの道をふさいできた。わたしたちは道中、大きな機会に遭遇することを期待するのではなく、迅速で精力的な行動によって機会をつかみ、機会に困難を征服させなければならない。

あなたは天からの命ある精力を必要としている。わたしたちは鉄が熱いうちに打つだけではなく、打つことによって鉄を熱くしなければならない。遅く安易で怠惰な動きは、この働きにおいて、わたしたちにとって何の役にも立たない。わたしたちは時が良くても悪くても即座に行わなければならない。今は働きのために危機的な時である。ためらいや遅延によって多くの良い機会を失ってしまう。……

あなたが義務を実行する道に立ちほだかっている主たるものは、優柔不断、目的の弱さ、不決断である。」（伝道 647）

4. 神の使命者のための教訓

- a. ヨナは渴いた地に吐き出された後、主から二度目にどの命令を受けましたか（ヨナ 3:1, 2）。
- b. 彼は滅ぶべき都市に入ってすぐ何をしましたか（ヨナ 3:3, 4）。神はどのような方法でニネベに対してご自分の憐れみを示されましたか。それはなぜでしたか（ヨナ 3:5-10）。

「ヨナは、町にはいるや否や、『これに向かって呼ばわ』り、『四十日を経たらニネベは滅びる』と言った（ヨナ 3:4）。彼は、警告の言葉を発しながら、通りから通りを進んだ。……

王と大臣たちが、地位の上下を問わず、一般の国民と共に、『ヨナの宣教によって悔い改め』、心をつにして、天の神に呼び求めたときに、彼らに、神のあわれみが与えられた（マタイ 12:41）。…… 彼らは、滅びを免れ、イスラエルの神は、異邦世界全土において、賛美され栄光を帰せられ、神の律法はあがめられた。ニネベが、神を忘れ、傲慢になったがために、周囲の国々の犠牲になるのは、それからずっと後になってからであった。」（国と指導者上巻 237, 238）

- c. 悔い改めた異邦人と悔い改めることを拒んだユダヤ人を、イエスはどのように対比されましたか（マタイ 12:41）。

「神は、人間に猶予の期間をお与えになる。しかし、神の忍耐の尽きる時がくる。そして、神の刑罰が必ず下るのである。主は、人々や町々を長く忍んで、神の怒りから彼らを救うために、彼らをあわれんで警告を発せられる。しかし、あわれみを請い求める声がついにやみ、真理の光を拒否し続けた人々は、消し去られる。それは、彼ら自身と、彼らの行為によって影響を受けるであろうと思われる人々に対するあわれみからなされることなのである。」（同上 243,244）

「わたしたちは自分たちの知る由のなかった光に対して責任を問われることはない。そうではなく、抵抗し、拒んだ光に対してである。」（レビュー・アンド・ヘラルド 1893年 4月 25日）

5. ヨナがわれに返る

- a. ニネベの悔い改めを喜ぶ代わりに、ヨナはどのように主に向かってつぶやき、自分の疑いや不従順の言い訳をしましたか（ヨナ 4:1-3）。
- b. ヨナがわれに返るように努められた神様の方法から、わたしたちは何を学ぶべきですか（ヨナ 4:5-11）。

「ヨナは、困惑し、面目を失い、ニネベを救われた神のみこころを理解することができなかったが、それでも、神があの大きな町に警告を発するように彼に命じられた任務は、果たしたのである。預言された事件は起こらなかったけれども、警告の使命は、やはり、神から出たものであった。そして、それは、神が計画なされた目的を果たしたのである。神の栄光が異教徒の間にあらわされた。」（国と指導者上巻 241）

「われわれの神は、あわれみの神である。神は、神の律法を犯した罪人たちを忍耐深く、あわれみをもって扱われる。今日、人々は、聖書に啓示されている神の律法に親しむ多くの機会があるにもかかわらず、町々には暴力と犯罪が力をふるい、罪悪にあふれているのをごらんになって、宇宙の支配者であられる神は到底満足されない。」（同上 243）

「すべての栄光のうちにある天使は、魂の救いのためになされている働きに関心を持っている。わたしたちは目覚めるべきほど目覚めていない。」（伝道 282）

個人的な復習問題

1. ソドムとニネベの主な違いは何でしたか。
2. わたしたちが、ためらいや疑いや神のみ声から逃れようとする事など、ヨナをまねる危険に陥るかもしれない方法をいくつか挙げなさい。
3. 差し迫った裁きについて警告するという自分の義務を果たした後、神がヨナを驚かされたように、どのようにこのお方はわたしたちも驚かせるかもしれませんか。
4. 勝利の後、わたしたちの態度は、どのようにしばしばヨナのような態度になりますか。
5. わたしたちを目覚めさせるためのどのような例証を、神は今日わたしたちに与えておられますか。

世俗的の人々の思いに届く驚くべき方法

「わたしはわが栄光を諸国民に示す。」(エゼキエル 39:21)

「異教徒の中にさえ、キリストが人々を罪と墮落の中からひきあげるために働かれるのにそのうつわとなる人々がいた。」(各時代の希望上巻 25)

参考文献：国と指導者上巻 212-220

日曜日

8月17日

1. 家庭訓練

- a. 聖書に、正しい種類の家庭訓練に関連して挙げられている名前のいくつかは何ですか(サムエル記上 1:20; 列王記下 5:2; ルツ 4:22; ダニエル 1:6)。

「子供たちに神の要求を教え、先祖たちに対する神の処置のすべてを彼らによく教えるように、神はヘブル人に命じておられた。これは、すべての親の特別の義務で、他人に委託できないものであった。他人のくちびるではなくて、父親と母親の愛の心からの教えが、子供たちに与えられなければならなかった。日ごとの生活のすべてのできごとに、神の思想が関連づけられなければならなかった。」(人類のあけぼの下巻 253)

- b. クリスチャンの両親の最初の義務は何ですか(箴言 22:6)。

「わたしたちは〔子供たちに〕神が彼らに要求しておられること、人生のすべての部分に宗教を持ち込むことが彼らの義務であることを教えよう。それは彼らが神を最高に愛し、自分の隣人を愛し、幸福に欠かすことのできない生活上の小さな礼儀をなおざりにすることがないためである。」(健康改革者 1877年5月1日)

2. 囚われの身であった小さな召使

- a. 自分の親から正しく教育を受けた少女は、異教徒の中における神の証人の一人として、どのように仕えましたか(列王記下 5:2, 3)。

「このヘブルの少女の両親は、彼女に神のことを教えたときに、彼女がどんな運命をたどるかを知らなかった。しかし、彼らはゆだねられた任務に忠実であった。そして、スリヤの軍勢の長の家庭において、彼らの子供は彼女が尊ぶことを学んだ神のためのあかしを立てたのである。」(国と指導者上巻 213)

- b. わたしたちが自分の子供に与えることのできる最も貴重な賜物は何ですか(申命記 4:10)。

「父親と母親にゆだねられた任務の中で、子供の保護と訓練ほど重要なものはない。両親は習慣と品性の基礎そのものを築かなければならない。彼らの模範と教育とによって、子供たちの将来の大半が決定されてしまうのである。……このような賜物を子供に与える両親は、あらゆる時代のすべての富よりも尊い宝、永遠に至る宝を子供に授けるのである。

われわれは子供たちがどのような奉仕に召されるかを知らない。彼らは家庭の中で一生を過ごすかもしれない。また人生の一般の職業に従事することもあろう。あるいは、異教の地に福音の教師として出かけるであろう。しかし、すべての者は同じ神のための伝道者、世界に対するあわれみの使者として召されているのである。彼らは、キリストの側に立って無私の奉仕をするための教育を受けなければならないのである。」(同上)

- c. わたしたちは自分の身に起こる尋常でないことを考えるとき、時々何を自覚しなければなりませんか(エレミヤ 10:23; 箴言 16:9)。

「この少女は家庭から遠く離れた奴隷であったけれども、神の証人のひとりで、神がご自分の民としてイスラエルを選ばれた目的を無意識のうちに達成したのである。」(同上 212)

3. ナアマン

- a. イスラエルの王であるヨラムは、スリヤの王からの手紙を読んだとき、どのように反応しましたか。エリシャはどのように彼を勇気づけようと思いましたか（列王記下 5:7, 8）。
- b. ナアマンがエリシャの住宅の戸口へ来たとき、彼の信仰はどのように試されましたか（列王記下 5:9-12）。ナアマンを癒し、彼をイスラエルの神に礼拝させるよう改心させた奇跡を描写しなさい（列王記下 5:13, 14）。

「ナアマンは、何か驚くべき天からの力のあらわれを見るものと期待していた。『わたしは、彼がきっとわたしのもとに出てきて立ち、その神、主の名を呼んで、その箇所の上に手を動かして、らい病をいやすのだろうと思った』と彼は言った。ヨルダンに行って洗うように言われたときに、彼の誇りが傷つけられた。そして、屈辱と失望のあまり、「ダマスコの川アバナとパルパルはイスラエルのすべての川水にまさるではないか。わたしはこれらの川に身を洗って清まることができないのであろうか』と叫んだ。『こうして彼は身をめぐらし、怒って去った』（列王記下 5:11,12）。

ナアマンの高慢心はエリシャが命じた方法に従おうとしなかった。スリヤの大將があげた川は、その周囲の木立ちによって美しくされ、多くの人々はこれらの心地よい川の岸辺に集まって、彼らの偶像の神々を礼拝した。ナアマンにとって、こうした川にくだっていくことは、大きな屈辱感を与えるものではなかった。しかし、彼がいやされるのは預言者の特別の指示に従うことによるのみであった。喜んで服従することによるのみ、願っているいやしが与えられるのであった。」（国と指導者上巻 214, 215）

- c. ナアマンはどのように真の神へと改心したことを告白しましたか（列王記下 5:15, 16, 19）。何世紀も後になって、イエスはナアマンの信仰をどのようにおほめになりましたか（ルカ 4:27）。

「ナアマンが肉体をいやされ、心は悔い改めてスリヤの家庭に帰ってから幾世紀も後に、救い主は、神に仕えると主張するすべての者への実物教訓として、彼の驚くべき信仰を例に引き賞賛されたのである。」（同上 219）

4. ゲハジ

- a. 聖霊が救おうと働いている人々の前に、ゲハジはどのように悪魔によって、つまずきの石を置くために用いられましたか (列王記下 5:20-24)。

「エリシャのしもべゲハジはこの年月の間に、彼の主人の生涯の働きの特徴であった自己犠牲の精神を養う機会が与えられていた。彼は主の軍勢の気高い旗手となる特権が与えられていた。天からの最高の賜物が長い間彼の手の届くところにあった。それにもかかわらず、彼はそれらに背を向けて、その代わりに世俗の富という卑しい合金をむさぼった。ここで彼は心にひそんだ強欲心のために、圧倒的誘惑に負けてしまった。」(国と指導者上巻 217)

「〔ゲハジは〕聖なる預言者エリシャの家に住んで、彼の信心深い生活を見、彼の熱烈な祈りと正しい原則を繰り返し教えるのを聞いた。しかしなお、彼は良くならなかった。」(エリ・G・柯什 1888 年原稿 1529)

- b. すべてのクリスチャンに要求されていること、とくに教師として、教会役員として、あるいは伝道者として召されている人々に要求されていることは何ですか (ヘブル 12:13)。

「真理を信じる信徒によって犯される悪は、教会に非常な弱さをもたらす。彼らは罪びとの道にあるつまずきの石であり、彼らが光に来ることを妨げる。」(教会への証 4 巻 252)

「神の律法を守り、教えると主張しながら、継続的にその律法を犯している人々は、罪人にとって、また真理を信じる信徒にとってつまずきの石である。多くの人がみなすエホバの律法と御子の賜物についてのゆるくてあいまいなやり方は、神にとって侮辱である。この蔓延している悪を正すことのできる唯一の方法は、み言葉の教師になる人をひとりずつ厳密に調べることである。その人は真理を信じると公言しているのであるから、この責任を担っている人々は自ら、その人の履歴を知るべきである。彼のクリスチャン経験と聖書の知識、現代の真理をつかんでいる方法はみな理解されるべきである。だれも彼が神の事柄に関して本当の生きた経験を持っていることを明らかにするまで、神のみ事業における働き人として受け入れられるべきではない。」(福音宣伝者 437, 438)

- c. わたしたちの霊的な安全は何にかかっていますか (コリント第一 10:12; コリント第二 13:5)。

5. 人は神を欺くことはできない

- a. ゲハジが二度目の偽りを口にしたとたん、何が起こりましたか（列王記下 5:25-27）。
- b. うそを言う人々について、聖書は何と述べていますか（箴言 19:5; コロサイ 3:25; 黙示録 22:15）。

「真理は神からのものである。種々様々の形態を装うあらゆる欺瞞はサタンからのものである。であるから、どんな方法においても、真理のまっすぐな道から離れるものは、悪魔の力に自分を売り渡しているのである。キリストの教えを受けた者ば、実を結ばないやみのわざに加わらない』（エペソ 5:11）。彼らは生活におけると同様、言葉も単純、正直、誠実である。彼らはその口に偽りが無い聖なる人々との交わりに入る準備をしているのである（黙示録 14:5 参照）。」（国と指導者上巻 219）

「どんなことにおいても、偽りを言うこと、隣人を欺こうとするすべての試みや意図が、ここに含まれている。欺こうとする意図が虚偽となるのである。目つき、手の動き、顔の表情によって、ことばと同じように効果的にうそが語られるかもしれない。わざと誇張されたしゃべり方、まちがった印象あるいは誇張された印象を伝えるように計画された暗示やほめかし、事実であっても誤解を招くような言い方などはすべて虚偽である。この戒めは、虚偽や悪意のある憶測や中傷、告げ口などによって隣人の評判を傷つける行為をすべて禁じている。事実を故意に隠して、その結果他人に害をおよぼすことは、第九条の違反である。」（人類のあけぼの上巻 361）

個人的な復習問題

1. わたしたちはどのように自分の子供たちをイスラエルの小さな召使のように準備することができますか。
2. わたしたちの青年が、どのような分野で奉仕することになっても、召しは何ですか。
3. 今日、ちょうどナアマンのように、どのように人々の心に触れることができますか。
4. ゲハジのどの精神が、わたしたちの最善の伝道努力を損なうかもしれませんか。
5. すべてのクリスチャンは、特に証するとき、何が要求されていますか。

四人の成功した伝道者たち

「彼らの〔捕囚の〕うちに、ユダの部族のダニエル、ハナニヤ、ミシャエル、アザリヤがあった。」(ダニエル 1:6)

「70年の捕囚の始まりに、バビロンにつれて行かれたイスラエルの子らの中にクリスチャンの愛国者がいた。」(超然と立つようにとの召し 52)

参考文献： 国と指導者下巻 91-101,107-111,118-121,148-158

日曜日

8月24日

1. バビロンの宮廷で

- a. 四人のヘブル人の捕囚と、また後になって彼らの神との接触において、ネブカデネザル王は、摂理的にどのような決定をしましたか(ダニエル 1:3-5)。
- b. その目的のために選ばれた青年たちの名は何でしたか(ダニエル 1:6)。三年間の訓練課程に参加することが承認されたのち、なぜ彼らの名前は変えられたのですか(ダニエル 1:7)。

「〔バビロンの〕王はヘブルの青年たちが彼らの信仰を捨てて偶像礼拝を受け入れるように強制はしなかったが、徐々にそうなることを希望していた。王は彼らに、偶像礼拝にとって重要な名を与え、日ごとに偶像礼拝の習慣と密接な交わりに入らせ、異教の礼拝の魅惑的儀式的影響下に彼らをおいて、彼らに自国の宗教を放棄させて、バビロン人の礼拝に結合させようとしたのである。」(国と指導者下巻 93)

「敵がわたしたちの魂に彼の狡猾な疑いや誘惑を押しつけるとき、わたしたちは素早く戸を閉めて、彼のほのめかしの感化を一掃しなければならない。」(ビュー・アンド・ワールド 1888年8月7日)

2. 神の祝福の伴う忠実さ

- a. 神はこれらの若いヘブル人が彼らの困難な状況のときに異教徒の中で輝く光となるために、どのように助けて下さいましたか (ダニエル 1:17)。

「この人々は、彼らが連れられていった国において、主を知ることによってもたらされる祝福を異教の国々に与えて、神のみこころを行うのであった。彼らは神の代表者となるのであった。」(国と指導者下巻 91)

- b. 自分たちを囲む誘惑を見ながら、彼らの決意は何でしたか (ヤコブ 1:12)。

「〔ダニエル 1:8 引用〕ヘブルの青年たちは、この決心をしたときに、思い上がった気持ちからではなくて、神に固く信頼して行動したのである。彼らは好んで奇異なことをしようとしたのではなく、神のみ栄えを汚すよりは、むしろそうしたかったのである。もし彼らがこの場合、環境の圧力に屈して悪と妥協したならば、この原則の離反は、彼らの正義感と悪を憎む心とを弱めたことであろう。悪の最初の第一歩は、さらに二歩、三歩と進んで、ついに彼らは天との関係が断絶して、誘惑にさらわれてしまうのである。」(同上 95)

- c. 神は彼らの忠実な努力をどのように祝福なさいましたか (ダニエル 1:19)。

「ヘブルの青年たちは三年間、『カルデヤびとの文学と言語とを学』ぶために研究した。彼らは神に対する忠誠を保ち、絶えず神の力に信頼した。彼らはその自製の習慣に』加えて、一意専心、勤勉、着実さなどを合わせ持っていた。彼らが王の宮廷にはいり、神を知らずまた恐れもしない人々との交わりにはいったのは、誇りのためでも野心のためでもなかった。彼らは異国の捕虜であって、無限の知恵に満ちた神によってそこに置かれたのであった。彼らは家庭の感化と聖なる交わりから遠く引き離されていたので、なんとかして立派にふるまって、踏みにじられた自国の榮譽と、彼らが仕える神の栄光をあらわそうとしたのである。」(同上 96)

3. 人間の努力と結合した神聖な力

- a. ヘブルの青年たちは、どのように、またなぜ傑出していたのですか(ダニエル 1:20)。

「バビロンの宮廷には全地からの代表者が集まり、最高の才能を持った人々、天賦の才に最も恵まれた人々、世界の与え得る最も広い教養を身につけた人々が集まっていた。しかしその中であって、ヘブルの青年たちと肩を並べ得るものはなかった。肉体的力と美、知的活力と文学的学識において、彼らに匹敵する者はなかった。真つすぐな姿勢、しっかりした弾力のある歩調、美しい容貌、鈍っていない感覚、汚染されていない呼吸などはみなそれぞれよい習慣の証明書であり、自然がその法則に従う者に授ける気高さの記章であった。

ダニエルと彼の仲間たちは、バビロンの知恵を得るに当たって、同僚の学生たちよりもはるかによい成績を取めた。しかし彼らの知識は偶然の結果ではなかった。彼らは聖霊に導かれて、彼らの能力を忠実に用いて知識を得たのであった。」(国と指導者下巻 97)

- b. 彼らは何を悟りましたか。また同様に、真の宗教を代表するように召されているすべての人は何を悟るべきですか(テモテ第二 2:15)。

「[ダニエルとその友達]はただ一つの目的、すなわち神の栄光をあらわすことのために、知識を得ようとしたのである。彼らは異教主義という偽宗教のただ中であって、真の宗教の代表者として立つためには、明晰な頭脳を持ち、キリスト者品性を完成すべきであることを自覚した。」(同上)

- c. イエスは成功する伝道のどのような手段を、特にわたしたちのまわりの世はわたしたちのうちに、彼ら自身のうちにあるものよりも何か聖なるものを探しているために、お教えになりましたか(マタイ 5:13-16)。

「神がダニエルとその仲間たちに働きかけて、『その願いを起させ、かつ実現に至らせ』ておられたときに、彼らは自分の救いの達成に努めていた(ピリピ 2:13)。」(同上 98)

4. ネブカデネザルが神に栄光を帰す

- a. ダニエルとその友達がバビロンの王に仕えるようになってまもなく、どのようなできごとがダニエルに神のために証する機会を与えましたか (ダニエル 2:1, 2)。
- b. ダニエルを通してなされた王の夢の啓示に応じて、ネブカデネザルはどのように天の神を認めましたか (47 節)。ネブカデネザルは、ドラの平野でのダニエルの友達がなした忠実な証に応じて、どのような宣言をしましたか (ダニエル 3:27-29)。

「三人のヘブルびとは、彼らが礼拝する神に対する信仰を、バビロン全国に宣言した。彼らは神に信頼した。彼らは試練の時に、『あなたが水の中を過ぎるとき、わたしはあなたと共にいる。川の中を過ぎるとき、水はあなたの上にあふれることがない。あなたが火の中を行くとき、焼かれることもなく、炎もあなたに燃えつくことがない』という約束を思い出した (イザヤ 43:2)。そして彼らの生けるみ言葉に対する信仰は、すべての人々の前で、驚くばかりに栄誉を受けたのである。彼らの驚くべき救いの知らせは、ネブカデネザルに招かれて落成式に来ていた多くの国々の代表者によって、広く国々に伝えられた。」 (国と指導者下巻 120)

- c. 神はネブカデネザルに対するご自分のあわれみと忍耐のうちに、この君主にどのように警告なさいましたか (ダニエル 4:5, 10-16, 19-22)。王の第二の夢を説明した後、ダニエルは彼にどのような訴えをなしましたか (ダニエル 4:27)。どのような屈辱的な経験が、ネブカデネザルを完全な改心へ導きましたか (ダニエル 4:30-34, 37)。

「神の譴責の下で、ネブカデネザルの誇り高い心は謙遜にされた。」 (レビュー・アノド・ハラルド 1896 年 9 月 8 日)

「かつての高慢な王は、謙遜な神の子となった。暴君的で専制的な王が、賢明で恵み深い王になった。……ネブカデネザルは、王の王、主の主であられる神の譴責を受けて、ついにすべての王が学ばなければならない教訓を学んだ。それは、真に偉大であるということは、真にいつくしみ深くあるということである。」 (同上 128, 129)

5. 天の光がダリヨス王の上を照らす

- a. ダニエルがすでに真理のほうへと感化を及ぼしていたダリヨスの下で仕えていたとき、ダニエルの信仰はどのように試されましたか。彼のためにしかけられたわなを説明しなさい(ダニエル 6:1, 2, 5-9)。
- b. ダニエルは命令にどのように反応しましたか(ダニエル 6:10-13)。
- c. ダリヨス王は、自分の王座の安全を懸念しているかのように見せかけていた人々によって、だまされていたことを悟ったとき、どのように感じましたか(ダニエル 6:14, 18-23)。異教の王はどのようにダニエルの王を唯一の真の神として高めましたか(ダニエル 6:25, 26)。

「ダニエルの救出の物語から、神の民は試練と暗黒の時にあっても、前途が希望に輝き、周囲の事情が望みどおりのものである時と、全く同じでなければならないことを、われわれは学ぶのである。ししの穴に入れられたダニエルは、国家の大臣たちの長として、また至高者の預言者として、王の前に立ったダニエルと同じであった。神を信頼している人は、最大の試練の時においても、神と人間からの光と恵みが降り注ぐ繁栄の時と同様なのである。……

天国は、義のために苦しむ者のそば近くにある。」(国と指導者下巻 154,155)

個人的な復習問題

1. わたしたちとわたしたちの青年の前には、ちょうどバビロンにおける三人のヘブル人の場合のように、今日どのように巧妙なわながしかけられているかを説明しなさい。
2. 青年たちの成功の秘訣は何ですか。
3. 神聖でない多大な群衆がわたしたちに会うとき、多くの人々は何を望んでいますか。
4. ネブカデネザルに教えられたどの教訓が、わたしたち一人びとのうちで一わたしたちが傑出した民であろうとなかろうと一大事にされなくてはなりませんか。
5. ダリヨスの心の中に聖霊が働いておられた証拠をあげなさい。

第一安息日献金 ナミビアの本部のために

世界中の親愛なる兄弟姉妹がた、コリント第二 9:6-8 をもってご挨拶申し上げます。

「わたしの考えはこうである。少ししかまかない者は、少ししか刈り取らず、豊かにまく者は、豊かに刈り取ることになる。各自は惜しむ心からでなく、また、しいられてでもなく、自ら心で決めたとおりにすべきである。神は喜んで施す人を愛して下さるのである。神はあなたがたにあらゆる恵みを豊かに与え、あなたがたを常にすべてのことに満ち足らせ、すべての良いわざに富ませる力のあるかたなのである」ことを覚えて下さい。

ナミビアは南アフリカに位置しています。北部はアンゴラとザンビアに、東はボツワナ、南東は南アフリカに、そして西部は大西洋に面しています。国民の多くはクリスチャンで、主にはルター教会です。カトリック、メソジスト、英国国教、オランダ改革、モルモン、そしてアドベンチストの信徒の数は少ないです。この国は完全な宗教の自由を享受しています。

改革運動が働きをナミビアで始めたのは 1992 年で、アンゴラの兄弟のグループが戦争から逃げて、オジルに落ち着いた時でした。これらの難民であった信徒たちは、伝道に対する熱心さをもって、難民ばかりでなく、地元のナミビア人にも伝道する機会を探していました。メッセージに反応する魂を探すのは困難な働きでしたが、数年後に、10 人以上のバプテスマがあり、初穂が見られ始めました。

南アンゴラミッションは、彼らに安息日聖書教科や、バプテスマや主の聖餐の神聖な儀式を執り行う牧師たちを送り、素晴らしい援助を提供しました。

現在のところ、ナミビアにおけるミッションにはバプテスマを受けた 20 人の教会員、またそのほか次のバプテスマのために準備している 候補者たちがいます。働きは成長しますが、働きの総会として使える適切な場所がありません。

わたしたちは世界中のすべての信徒にお願いします。ナミビアの首都であるビンドフックにおけるこのプロジェクトを、祈りと資金をもって支えて下さい。主がこのプロジェクトを直接、あるいは間接的に助けてくれるすべての人々を祝福してくださいように。

アフリカ地域担当書記



イスラエルにおける大危機

「あなたがこの国に迎えられたのは、このような時のためでなかったとだれが知りましょう。」(エステル 4:14)

「神のみ摂理のうちに、いと高き者を畏れるユダヤ人エステルは、メド・ペルシャ王国の女王にされた。」(争闘と勇氣 244)

参考文献： 国と指導者下巻 203-209

日曜日

8月31日

1. 悪い命令が大危機を生じさせる

- a. ユダヤ人が故郷に帰ることを許したはじめの二つの命令に署名したメド・ペルシャ王の名前は何か(それぞれ B.C. 536 年及び 528 年) (エズラ 1:1-3; 6:1, 2, 6-8)。
- b. イスラエルの子らは B.C. 510 年にアハシュエロスの治世の間、どのような危機に遭いましたか(エステル 3:8-13)。命令はユダヤ人の間にどのような苦悩を生じさせましたか(エステル 4:3)。
- c. 主は危機の前に彼らにどのようなメッセージを送っておられましたか(ゼカリヤ 2:6-9)。

「主はクセルクセスすなわち、エステル記のアハシュエロスの治世に、困難な時代が来ることを予見された。そして権威をもった人々の心を変えられたばかりでなく、ゼカリヤに靈感を与えて捕囚の民に帰還することを訴えられたのである。……

神の民が地で誉れを受け、神のみ名の栄えとなることがはじめから神のみこころであったように、それは今でも神のみこころであった。」(国と指導者下巻 203, 204)

2. 神のみ摂理はサタンの計画を打ち破る

- a. 危機に直面するとき、神の民はいつも何を思い出すべきですか（ローマ 8:31）。神のみ摂理は、敵の計画を打ち破るために、どのように働きましたか（エステル 2:15, 16）。

「サタン自身がこの策略の背後で暗躍して、真の神の知識を保っている人々を地上から滅ぼし去ろうとしていたのである。……

しかし敵の策略は、人間の子らを支配しておられる神の力によって打ち破られた。」（国と指導者下巻 205, 206）

- b. 王は、自分の命令が、将来の大虐殺に自分自身のユダヤ人の妻も含むようになることを知っていましたか。なぜ、モルデカイはエステルが今女王であることが摂理であったことを発見したのですか（エステル 4:13, 14）。

「モルデカイは〔エステル〕の親せきであった。彼らは窮地に追いこまれて、ユダヤ民族のためにクセルクセスに訴えることにした。エステルはとりなす者として、王の面前に危険を冒して出るのであった。」（同上）

- c. 女王エステルはモルデカイにどのような指示を送りましたか。彼女が自分の民のためには命をも犠牲にする用意ができていたことを、何が示していますか（エステル 4:16）。

「エステルが当面した危機は、真剣な努力を急速にする必要があった。しかしエステルもモルデカイもともに、神が彼らのために大いなる働きをして下さるのでなければ、彼ら自身の努力は無益なことを知っていた。そこでエステルは、力の源である神と交わる時間をとったのである。」（同上）

「エステルの時代に神の民を訪れた苦しい経験は、ただその時代だけのものではなかった。……

各時代において、人々に真の教会を迫害させた同じ精神が、将来も、神に忠誠をつくす者に対して同様の行動を取らせるに至るのである。現在でさえ、この最後の争闘に対する準備が行われているのである。」（同上 208, 209）

3. 祈りと断食は何ができるか

- a. エステルが三日間祈りと断食に過ごした後、自分の夫の前に姿を現した時に、どのような好ましい反応を受けましたか（エステル 5:1-3）。

「どのような力も彼らを救うことができないように思えたとき、エステルと彼女と共にいた女性たちは断食と祈りと迅速な行動によって、事に当たったのであった。」（争闘と勇氣 245）

- b. エステルは自分の夫とハマンにどのような招待をしましたか。またその成就にあたり、ハマンの反応はどのようなものでしたか（エステル 5:4, 5, 12, 13）。ハマンの妻は、モルデカイに対する彼の憎しみを知って、彼にどのように提言しましたか（エステル 5:14）。

- c. 二度目の酒宴の前の晩、神のみ摂理はどのように働きましたか（エステル 6:1-3）。モルデカイを殺す許可を求めに来たちょうどそのとき、王はハマンに何をするように命じましたか（エステル 6:4-10）。

- d. ハマンは今起こったことを告げるために急いで家に帰ったとき、どのように感じましたか（エステル 6:11, 12）。ゼレシは自分の夫にどのような警告を与えましたか（エステル 6:13）。

「わたしたちのための神の愛は日ごとに立証されている。それなのに、わたしたちはこのお方の恩寵を考慮することなく、このお方の嘆願に無関心である。このお方はわたしたちに優しいご自分の精神、ご自分の愛と寛容を印象づけようとしておられる。しかし、わたしたちはこのお方の親切のしるしをほとんど認めることなく、わたしたちに学んでほしいと思っておられる愛の教訓をほとんど自覚しない。ある者は、ハマンのように神の恩寵をみな忘れている。なぜなら、彼らの前にモルデカイがいて恥辱をこうむっていないからである。彼らの心が、愛、すなわち敵のためにご自分の尊い命をお与えになったわたしたちの愛するあがない主の精神よりは、敵意と憎しみで満たされているためである。わたしたちは同じ御父を持ち、同じ不朽の家に向かっており、同じ厳粛な信仰を享受しており、同じ試金石となるメッセージを信じていると公言している。しかしなお、多くの人々はけんか好きな子供のように互いに争っているのである。」（教会への証 4 巻 222）

4. 神は困難な状況を逆転させることがおできである

- a. エステルは二度目の酒宴の時にアハシュエロス王にどのような嘆願をしましたか(エステル 7:3, 4)。エステルの言葉に驚いて、王は彼女に何をたずねましたか(エステル 7:5, 6)。
- b. ハマンに対する王の怒りを見たとき、侍従は王に何を示唆しましたか(エステル 7:7, 10)。悪い人々は他の人々を傷つけようとするとき、何を心にとめているべきですか(箴言 26:27)。

「モルデカイは、以前ハマンが占めていた栄誉ある地位を与えられた。彼は『アハシュエロス王に次ぐ者となり、ユダヤ人の中にあつて大いなる者となり、その多くの兄弟に喜ばれた』(エステル 10:3)。彼はイスラエルの幸福を増進させた。こうして神はもう一度、メド・ペルシャの宮廷において神の選民に恵みを得させ、彼らを故国に回復させようとする神のみこころを実行することを、可能にして下さったのである。しかしそれから数年経過して、クセルクセス大王の次に即位した、アルタクセルクセス一世の第七年になってはじめて、エズラの指導のもとに、相当数の者がエルサレムに帰還したのである。」(国と指導者下巻 208)

- c. アハシュエロスによってどのような反対の布告が出されましたか(エステル 8:5, 13)。祈りと断食をもって主の助けを求めていたユダヤ人はどのように救出されましたか(エステル 9:1, 2, 16, 17)。

「神は悔い改めた民のために、驚くべきことをなされた。そして王は、前とは反対の布告を出して、ユダヤ人が彼らの生命を保護することを許し、早馬に乗った急使が王国の各州に急速に伝えた。彼らは『王の命によって急がされ、せきたてられて出て行った』(エステル 8:14)。」(同上 206)

「ある事柄のためには断食と祈祷を勧めるし、またそれが適切である。これは神の御手の中にあつて心を清め、真理を受け入れやすい精神状態にする手段である。我々は祈りの応答を得るが、それは我々が神の御前に心をへりくだらせるからである。」(食事と食物に関する勧告 172)

5. 歴史はどのように繰り返されるか

- a. 近い将来、戒めを守る神の民はどの預言的な言葉が成就するのを見るようになりますか (マタイ 24:9; 黙示録 12:17)。

「各時代において、人々に真の教会を迫害させた同じ精神が、将来も、神に忠誠をつくす者に対して同様の行動を取らせるに至るのである。現在でさえ、この最後の大争闘に対する準備が行われているのである。

最後に神の残りの民に対して出される布告は、ユダヤ人に対してアハシュエロス(クセルクセス)が発したものと非常によく似ている。今日、真の教会の敵は、安息日の戒めを守る小さな群れを、門に座しているモルデカイのように思っている。……

サタンは一般の習慣や伝統を受け入れない、少数の者に対して怒りを発する。地位の高い人々や有名人は、不法者や悪人に加担して、神の民に対して策略を練る。富を持った人、特殊の才能の持ち主、教育のある人などが一つになって彼らを軽べつする。迫害を加える支配者たち、牧師や教会員たちが彼らを滅ぼそうと陰謀を企てる。この人々は声と筆、誇張と脅迫と嘲笑などによって、彼らの信仰をくつがえそうとする。人々は偽りの申し立てと、怒りを含んだ訴えによって民衆の怒りをかき立てようとする。聖書的安息日の擁護者に対して、『聖書はこう言っている』ということができないので、彼らは圧制的法令に訴えて、自分たちに欠けているものを補う。……真理と誤りの間の最後の争闘は、この論点において戦われるのである。」(国と指導者下巻 208, 209)

個人的な復習問題

1. 神はエステルの治世の間に、ユダヤ人が直面する危機を、あらかじめどのように述べておられましたか。
2. 大惨事を避けようと努めたエステルの第一歩は何でしたか。
3. 神はエステルの時代の悪人や悪魔のような人々の計画をどのようにお変えになりましたか。このお方は今日も同じことをなさるでしょうか。
4. 危機を引き起こしたことについて神はハマンをどのように罰せられましたか。
5. 神はこの危機をみ摂理的に、どのように伝道的手段としてお用いになりましたか。歴史が勝利のうちにくり返される方法を説明しなさい。

技能のある書記官エズラ

「エズラは心をこめて主の律法を調べ、これを行い、かつイスラエルのうちに定めとおきてとを教えた。」(エズラ 7:10)

「エズラの経験は、……エズラが天の神のみ力について、またご自分の民をエルサレムに回復なさるこのお方のご計画について、自由に言葉を交わしていたアルタシヤスタ王の好評を招いた。」(ビュー・アンド・ハラルド 1908 年 1 月 30 日)

参考文献： 国と指導者下巻 210-229

日曜日

9月7日

1. エズラとアルタシヤスタ

- a. メド・ベルシャの王アルタシヤスタ・ロンギマノスの名は、神の民の歴史においてどのような意味を持っていますか(エズラ 7:8, 10-14)。アルタシヤスタの布告は何年に出されましたか。

「エズラやネヘミヤが生存し活動したのは、〔アルタシヤスタ〕の治世においてであった。紀元前 457 年に、エルサレム再建の第三回目で最後の布告を出したのはこの王である。」(国と指導者下巻 210)

- b. アルタシヤスタの宮廷において、エズラはどの地位を占めていましたか。彼はどのようになお捕囚状態にあった神の民を助けることができましたか(エズラ 7:1, 6, 10, 21)。

「その長い治世にわたって、〔アルタクセルクセス＝アルタシヤスタ〕はしばしば神の民に好意を示し、自分が信頼し愛していたエズラとネヘミヤというユダヤ人の友人は、神が特別な仕事のために起こして任命された人々であることを認めたのである。

バビロンに残っていたユダヤ人の中でのエズラの経験は非常に著しいものであったので、アルタクセルクセス王の好意的注目を浴びた。そしてエズラは、天の神の力と、ユダヤ人をエルサレムに回復することについての神の計画に関して、自由に王に話したのである。」(同上 211)

2. エズラの主な働き

a. エズラは他にどのような重要な働きを成し遂げましたか (エズラ 7:10)。

「聖書研究熱を復興しようとするエズラの努力は、聖書を保存し増加させようとする骨の折れる、彼の生涯の事業として永続的なものとなった。彼は集め得るすべての律法の書を集め、それらを写して配布したのである。こうして増加されて多くの人々の手に渡された純粋な言葉は、計り知れない価値のある知識を与えたのである。」(国と指導者下巻 212)

b. 神を信じる彼の信仰、イスラエルにいる民を愛する彼の愛、そして王との友好的な関係は、彼がどのように導きましたか (エズラ 7:9)。

「エズラは神が、ご自分の民のために大いなる働きをして下さることを信じていたので、エルサレムに帰って神の言葉の研究熱を復興し、聖なる都の再建をしている兄弟たちを助けたいという願いを、アルタクセルクセスに告げたのである。エズラがイスラエルの神に完全に信頼して、神はその民を保護し養うことが十分おできになることを宣言したときに、王は深く心を動かされた。王はイスラエルの人々が、主に仕えるために帰還していることをよく理解した。さらに王は、エズラの誠実さを非常に信頼していたので、彼に著しい好意を示し、彼の願いを許して神殿の務めのために、高価な贈り物を彼に与えたのである。王は彼をメド・ペルシャ王国の特使として、彼に広範囲にわたる権威を授けて、彼の心中の計画を達成させようとした。

七十年の捕囚期間の終了後、第三回目のアルタクセルクセス・ロンギマノスのエルサレム復興と建設の布告は、天の神に関する表現があり、またエズラの業績を認め、神の残りの民に多額の補助金を与えている点において、大いに注目すべきものである。」(同上 213)

c. アルタシャスタ王の布告を要約しなさい (エズラ 7:12-21)。

3. 守り、保護するための教訓

- a. 聖なる宝(金銀)をバビロンからエルサレムに移動する際に、どのような予防措置がとられましたか(エズラ 8:24-29)。

「しかし神の祝福があるからといって、思慮分別と用心を必要としないわけではない。エズラは財宝を守るために特別の注意を払い、すでにその忠実さと忠誠さが証明された、『おもだった祭司 12 人……を選び、金銀および器物、すなわち王と、その議官と、その諸侯およびすべて在留のイスラエルびとが、われわれの神の宮のためにささげた奉納物を量って彼らに渡した』(エズラ 8:24,25)。この人々は、委託された財宝を忠実な家令として注意深く守るように、厳粛な命を受けた。……

そして彼らは、負わせられた責任について明白な指示を与えられた。エズラは、主の財産の保管者としての任に当たる忠実な役人を任命したときに、神の働きにおける秩序と組織の必要とその価値を認めた。」(国と指導者下巻 218, 219)

- b. すべての人、特に教会の指導者や役員は、主の宝を移すにあたり払われた注意や慎重深さから、どのような教訓を学ぶべきですか。

「主の宝の運搬と安全のためにエズラが注意深く準備したことは、思慮深く研究するに価する教訓を教えている。その信頼性が証明されたものだけが選ばれた。そして彼らは、負わせられた責任について明白な指示を与えられた。」(同上)

「神の御使は神の民が義務の道を歩んでいる間は、彼らを守る。しかし、あえてわかっていながらサタンの領地に踏み込む人々のためには、そのような保護の保証はない。」(教会への証 5 巻 198)

- c. 長く危険な旅路の準備ができたとき、エズラとその一行は出発の前に何をしましたか(エズラ 8:21, 23)。

「真の断食と祈りは、思いと心と意志を神に明け渡す精神である。」(教会への証 3 巻 324)

4. エズラは自分の告白と一致していた

- a. バビロンからエルサレムへの道中、なぜエズラは保護のために兵士の一隊を要求しないことを決心したのですか(エズラ 8:22)。

「エズラとその一行は、ここにおいて異邦人の前で、神の名を賛美する機会を認めたのである。もしイスラエルびと自身がここで、彼らの指導者であられる神に絶対的の信仰をあらわすならば、生ける神の力に対する信仰が強められるのであった。そこで彼らは、神に全面的信頼をおくことにしたのである。彼らは兵卒たちの保護を求めなかった。彼らはただ神にのみ属する栄光を、人間の力に帰する理由を異邦人に与えないのであった。彼らは自分たちが神の民として、真心から神により頼んでいることに関して、異邦の友人たちの心に一点の疑惑も起こしてはならないのであった。」(国と指導者 217,218)

「しかし、すべての者が安全に守られた。彼らの敵は抑制されていたので、害を加えることができなかった。」(同上 219)

- b. エズラにあてた手紙の中で、王のどの表現が、エズラが王と彼の議官たちに有益な宗教的感化を及ぼしていることを示していますか(エズラ 7:11, 15, 21)。
- c. 神はユダヤ人の離散を、どのように用いて真理の知識が異教徒の注意を引くようになさいましたか。主はいつ同様な手段をお用いになりましたか(使徒行伝 8:1)。

「離散しているユダヤ人は年ごとの大祭のために全地からエルサレムに集まった。…その居留地へもどると、メシヤの来臨についてのおとずれを世界じゅうにひろめることができた。」(各時代の希望上巻 22)

「イスラエルの人々はしばしば、異邦人に対する神のみこころを理解することができず、また、理解しようとしなかった。……すべての魂が自由に神に近づくことができるように、キリストはすべての差別の壁を取り除き、神殿のすべての部屋を広く開けるために来られた。」(国と指導者上巻 335-337)

5. 驚くべきリバイバルと改革

- a. エズラがエルサレムに着くと、先に戻っていた人々が、どのような霊的状态にあるのを見出しましたか (エズラ 9:1-3)。
- b. 集会の開始にあたりエズラが捧げた祈りの要点は何でしたか (エズラ 9:6-15)。
- c. 祭司や民は集会で何をすることを決定しましたか (エズラ 10:3-5, 7-12)。

「先年エルサレムに帰った〔最初の亡命者〕の中には、生きている間神に忠誠をつくした人々が多くあった。しかし彼らの子孫の多くは、神の律法の神聖さを見失った。責任を負わせられた人々の中には、公然と罪の生活をしている者さえいた。彼らの行動は、神の事業を推進させようとしていた他の人々の努力を、大いに妨げていた。はなはだしい律法の違反を譴責もせずに放任しておく限り、神の祝福は人々の上を下ることはできなかった。」(国と指導者下巻 220)

「〔エズラ 9:1-10:5 引用〕。驚くべき改革は、こうして始まったのである。エズラと彼の同僚たちは、限りない……忍耐と機転をもって、関係者各自の権利と幸福を十分に考慮して、悔い改めたイスラエルの人々を、正しい道に導こうと努めた。」(同上 224)

個人的な復習問題

1. アルタシャスタの支配下にあった神の民をエズラはどのように助けることができましたか。
2. 聖書を保存するのを助けるために、エズラはどのような働きをしましたか。
3. 神は、彼の王との友情を通して、どのように彼を助けて下さいましたか。
4. 宝が移された方法から、わたしたちは神聖な保護と個人的な責任という教訓を、どのように学ぶことができますか。
5. ユダヤ人の離散は、どのように伝道の手段となりましたか。

断固とした改革者ネヘミヤ

「わが神よ、わたしを覚え、わたしをお恵みください。」(ネヘミヤ13:31)

「〔ネヘミヤ〕を通して、……神はご自分の民の父祖たちの血で彼らに祝福をもたらすという目的を持っておられた。」(争鬪と勇氣 262)

参考文献： 国と指導者下巻 230-261

日曜日

9月14日

1. 神がネヘミヤを助けられる

- a. ネヘミヤはだれでしたか。彼はエルサレムからどのような知らせを聞いて、嘆き、断食し、祈りましたか(ネヘミヤ1:2-5)。

「ネヘミヤは彼の民のために、しばしば心を注ぎ出したのであった。しかし今、彼が祈ったときに、彼の心には聖なる決意が起こった。もし王の許可が与えられ、器具と材料を手に入れるのに必要な援助が与えられるならば、ネヘミヤ自身がエルサレムの城壁の再建事業に着手し、イスラエルの国家的勢力を回復しようと決心した。そして彼は、王の前で彼に恵みが与えられて、この計画が実施されるように主に願いを求めた。」(国と指導者下巻 231)

- b. ネヘミヤは彼の必要について王に語る機会のためにどれくらい長く待ちましたか。彼らの会話を述べなさい(ネヘミヤ2:2, 3)。
- c. ネヘミヤの祈りによって、どのように全能者の力が彼の援助にもたらされましたか。なぜ彼は祈ったのですか(ネヘミヤ2:4-6)。

2. わたしたちのための重要な教訓

- a. ネヘミヤの祈りから、わたしたちはどの教訓を学ぶべきですか（ネヘミヤ 2:4（下句））。

「緊急の時にネヘミヤが祈ったように祈ることは、他の形式の祈りをするのが不可能な場合に、キリスト者が用いることができる方法である。人込みの中で労苦しながら仕事をしている人々は、神の導きを祈り求めることができる。海陸の旅をする人々も、大きな危険にさらされるときに、このようにして天の神の保護に身をゆだねることができる。突然困難や危機が訪れた場合には、彼を信じる忠実な者の呼ぶ声に答えて、いつでも来て助けるとみずから約束なさったかたの助けを呼び求めればよいのである。人はどんな環境、どんな状態のもとにあっても、悲しみと労苦に圧倒され、あるいは誘惑に激しく襲われるときに、契約を守られる神の尽きない愛と力に、確認と支持と援助を見いだすことができるのである。」（国と指導者下巻 234）

- b. 自分の権威と、自分に与えられた特権を、明確にするために、ネヘミヤがどのように注意を払ったか説明しなさい（ネヘミヤ 2:7-9）。

「この〔ネヘミヤの〕賢明な洞察力と、決然とした行動の模範は、すべてのキリスト者が学ぶべき教訓である。神の民は信仰をもってただ祈るだけでなく、勤勉と先見の明をもって働かなければならない。彼らは多くの困難に遭遇する。そして彼らは、慎重であることと、骨を折って努力することが、信仰となんの関係もないと考えるために、彼らのための摂理の働きをしばしば妨げるのである。ネヘミヤは涙を流し、主の前に祈っただけで義務を果たしたとは考えなかった。彼は嘆願するとともに清い努力を重ね、自分が携わっている企てが成功するために、熱心に祈りつつ励んだのである。エルサレムの城壁を建設したときと同様に、今日においても聖なる事業を推進するためには、周到な考慮とよく練られた計画が必要である。……

そして主は今もなお、真理の働きのために、主の財産を所有している人々の心を、快く動かして下さるのである。主のために働く者は、主が人々を動かしてお与えになる援助を活用しなければならない。」（同上 235, 236）

3. 神のために働くことを学ぶ

- a. エルサレムにおけるネヘミヤの最初の働きは何でしたか。そして彼はどのように地元の人々の協力を得ましたか（ネヘミヤ 2:11-16）。

「ネヘミヤはひそかに黙々と城壁を見て回った。〔ネヘミヤ 2:16 引用〕。彼は夜の残りの時間を祈りに費やした。というのは、朝になれば、落胆して分裂している同胞を奮い立たせて一致させるために、熱心に努力しなければならぬことを、彼は知っていたからである。

ネヘミヤは、住民が町の城壁建設に協力するように要求する、王の任命を持っていたが、彼は権力の行使に依存しなかった。彼はその前にある大事業のためには、手の一致とともに、心の一致が必要であることを認めていたので、人々の信頼と共鳴を得ようとした。」（国と指導者下巻 238,239）

- b. ネヘミヤは民にどのような訴えをしましたか。彼らの反応はどのようなものでしたか（ネヘミヤ 2:17, 18）。

「朝になって彼が人々を召集したときに、彼らの眠っている力を目覚めさせ、離散した仲間たちを一致させるように考えぬいた課題について語った。

ネヘミヤの聴衆は、その前夜に彼が真夜中の巡回をしたことを知らなかったし、彼も彼らに告げなかった。しかし、彼がこの視察をしたことは、彼の成功に大いに寄与したのである。彼は聴衆が驚くほどの正確さと詳細さをもって、町の状態について語る事ができた。エルサレムの弱々しさと退廃を見たときの印象が、彼の言葉に熱誠さと力とを与えた。……

ネヘミヤはこうしたことをすべて語って、彼がイスラエルの神の権威と、ペルシャの王の権威の両方によって支持されていることを示し、この機会を活用して立ち上がり、城壁を建設するかどうかを直接人々にたずねたのである。

この訴えは直接彼らの心に触れた。彼らは、天の神の恵みがいかに彼らのためにあらわされたかを考えて、今までの恐れを恥じ……た。

ネヘミヤは着手した事業に、全身を打ち込んでいた。彼の希望と精力と熱心と決意とは伝染性をもっていて、同じような気高い勇気と大望を他の人々にも吹き込んだ。」（同上 240）

4. 敵からの反対

- a. ある人々は自分の怒りや恐れを隠すためにどのような手段を用いますか。イスラエルの敵が、ユダヤ人が再び建設を始めたことを聞いたとき、彼らをどのように笑いましたか（ネヘミヤ 4:1-4）。
- b. イスラエルの敵は、自分たちの恐れが現実になることを見たとき、どの計画を採用しましたか（ネヘミヤ 4:11）。サタンは、働きに協力することを拒んだユダヤ人を通して、どのように建設者たちを失望させようとしたか（ネヘミヤ 4:12）。

「失望はさらに別の方面からやって来た。『近くに住んでいるユダヤ人たち』、すなわち、工事に参加していない人々は、敵の言葉や情報を集めて、これらのものを用いて勇気をくじき、離反させようとした（ネヘミヤ 4:12）。」（国と指導者下巻 244）

- c. ユダヤ人に自分たちの敵の計画を知らされたとき、何が起こりましたか。怯える代わりにどのような状況下で働きは続けられましたか（ネヘミヤ 4:15-18）。

「ネヘミヤの時代の建設者たちが、公の敵や、友人を装った者たちから受けた反対と失望は、今日、神のために働く者が経験することの象徴である。キリスト者は、敵の怒り、嘲笑、残酷さなどに苦しめられるばかりでなく、友人であり、援助者であることを誓った人々の無関心、矛盾、生ぬるさ、裏切りなどにも悩まされる。彼らには嘲りと非難が浴びせられる。侮辱させる同じ敵が、機に乗じてさらに残酷で乱暴な手段をとらせるのである。

サタンは清められていない者をみな、彼の目的の達成のために活用する。神の事業の支持者であると称している人々の中には、神の敵と結託して、神の事業を最も恨み重なる敵の攻撃にさらす者がいる。……しかし神の民は、ネヘミヤのように、敵を恐れることもまた軽視することもない。彼らは神に信頼して着実に前進し、無我の精神をもって神の働きをし、彼らが支持する事業を神の摂理にゆだねるのである。」（同上 245,246）

5. サタンの計画を見抜く

- a. ユダヤ人がほとんど城壁を完成したことをイスラエルの敵が知ったとき、何が起きましたか。敵は自分たちの戦術をどのように変えましたか（ネヘミヤ 6:1-3）。

「[サンバラテと彼の共謀者]は敵対していた関係者たちの妥協を望む風を装って、ネヘミヤとの会談を求め、オノの平野にある一つの村で彼らに会うようにと、彼を招待した。しかしネヘミヤは、彼らの真意を聖霊によって明らかに示されて断った。」
(国と指導者下巻 254)

- b. サンバラテと彼の共謀者はどのような新しい策略を用いましたか。ネヘミヤは彼らに何と答えましたか（ネヘミヤ 6:5-8）。ネヘミヤはどのような間違いを注意深く避けましたか。

「何かの不注意な行動によって神の働きを辱め、または同僚の手を弱める者は、彼自身の品性にたやすくぬぐい去ることのできない汚点をつけ、その将来の有用性に重大な障害を置くのである。」(同上 260)

- c. 城壁と門の完成に対してわきあふれた感情を描写しなさい（ネヘミヤ 8:16, 17）。神の民の敵はどのように感じましたか（ネヘミヤ 6:15, 16）。

個人的な復習問題

1. ネヘミヤはアルタシャスタ王に答える前に、何をしましたか。
2. ネヘミヤはあらゆる手配において、どのように注意を働かせましたか。
3. 改革者はエルサレムでまず何をしましたか。それはなぜですか。
4. わたしたちは一ちょうど当時の城壁の建設者たちのように、今日どのようにサタンの戦術に対して優位に立つことができますか。
5. ネヘミヤは敵について何を見抜くことができましたか。

前進する改革!

「わが神よ、この事のためにわたしを覚えてください。わが神の宮とその勤めのためにわたしが行った良きわざをぬぐい去らないでください。」(ネヘミヤ 13:14)

「世界は神から迷い出ている。そして、その律法のない状態は心を恐怖で撃ち、偉大な王に忠実であるすべての人々を改革の働きへ導くべきである。」(サムエル・グレイブ 1884 年 1 月 17 日)

参考文献： 国と指導者下巻 269-278

日曜日

9月21日

1. ネヘミヤの最初の行動

- a. ユダヤ人が自分の故郷に落ち着き、自ら神に従うと誓ったのち、ネヘミヤの不在中に何が起こりましたか (ネヘミヤ 8:18; 9:1, 2; 10:28-31; 13:6)。
- b. 彼がエルサレムに戻ったとき、どのような状態であることを見出しましたか (ネヘミヤ 13:7)。

「偶像礼拝者たちは町の中で足場を固めたばかりでなく、彼らが入り込んできて神殿の境内そのものを汚すに至った。大祭司エリアシブと、イスラエルの恨み重なる敵であるアンモンびとトビヤとの間には、縁組によって友好関係が結ばれていた。この汚れた同盟の結果、エリアシブは神殿に付随していた部屋を、トビヤが使用することを許した。そこはもと、人々の什一や捧げ物を保管する倉庫であった。」(国と指導者下巻 269)

- c. 神のみ言葉を無視して (申命記 23:3-6)、大祭司エリアシブは何をしましたか。ネヘミヤが改革の働きにおいて、最初にとった手段は何でしたか (ネヘミヤ 13:7-9)。

2. 協力を訴えるべき時

- a. 献金が誤用されたとき、多くの人々はどのような意味において失望しましたか（ネヘミヤ 13:4, 5）。宮の多くのしもべたちは、必要に迫られて何をしましたか（ネヘミヤ 13:10）。

「〔神のご命令〕の言葉に反して、大祭司は、神の家のへやに貯えられてあった捧げ物を外に出して、この禁じられた種族の代表者の入る場所をつくった。神と神の真理の敵に対して、このような好意を示すことほど、神に対する大きな侮辱はなかった。

ネヘミヤはペルシャから帰ってきて、神に対するこの大胆な冒瀆を知り、直ちに侵入者を追放する手段を取った。……

神殿が汚されたばかりでなく、捧げ物も誤って用いられた。そのために人々は、惜しみなく捧げることをしなくなった。彼らは熱心さと熱情を失い、十分の一を出ししぶった。主の家の倉には、わずかしか物がなかった。歌うたう者たちや、宮の務めをするために雇われていた多くの人々は、十分の物が与えられずに、神の働きをやめて他のところで働くために去って行った。」（国と指導者下巻 269,270）

- b. 改革の努力を払うネヘミヤの決定的な指導力に、民はどのように答えましたか（ネヘミヤ 13:11-13）。

「ネヘミヤはこうした害悪を正すために働き始めた。彼は主の務めを去った人々を集めて、『その持ち場に復帰させた。』こうして人々の信頼を勝ち得た。『そこでユダの人々は皆、穀物、ぶどう酒、油の十分の一を倉に携えてきた。』『忠実な者と思われた』人々が、『倉（の）つかさ』とされた。『彼らの任務は兄弟たちに分配する事であった』（申命記 13:11-13）。」（同上）

「ネヘミヤの努力が成功したことは、祈りと信仰と、賢明で活発な行動が何を成し遂げることができるかを示している。ネヘミヤは祭司ではなかった。彼は預言者でもなかった。彼は大きな称号を求めなかった。彼は大切な時に立てられた改革者であった。人々を神との正しい関係に引きもどすことが、彼の目的であった。彼は大きな目的に心を動かされて、彼の存在の総力をその達成のために費やしたのである。」（同上 275）

3. 安息日遵守が回復される

- a. ネヘミヤの不在中に、どのようにイスラエルと異教徒を区別するしるしが無視されましたか（ネヘミヤ 13:15, 16）。

「偶像礼拝者と交わったもう一つの結果は、イスラエルを真の神の礼拝者として、他のすべての国々と区別したしるしである、安息日を無視したことであった。ネヘミヤは異邦の商人や行商人がエルサレムにやって来て、多くのイスラエルの人々に、安息日に商売に従事させていたことを知った。原則を犠牲にすることができない者もあったが、他の者は、良心的に従おうとする人々の道徳観念を抑えつけて、律法を犯し異教徒と同調した。多くの者があえて安息日を犯した。……

このような事は、つかさたちが権威を行使したならば、防ぐことができたのであった。しかし彼らは、自分たちの利益を増進するために、神を敬わない人々に味方したのである。」（国と指導者下巻 270, 271）

- b. ネヘミヤはどのように、またなぜ指導者たちをその責任の怠慢のために譴責しましたか（ネヘミヤ 13:17, 18）。

『『商人およびさまざまの品物を売る者どもは』 なかなかその考えを変えようとせず、市民または田舎の人々と商売をする機会を得ようとして、『一、二回エルサレムの外に宿った』（ネヘミヤ 13:20）。』（同上）

- c. この物事の事態をネヘミヤはどのように正しましたか（ネヘミヤ 13:19-23）。

「〔ネヘミヤ〕はまたレビびとが、一般の民よりは人々の尊敬を受けているのを知っていたので、彼らに命じて門を守らせた。彼らは神の務めに密接な関係があったので、神の律法への服従を実施するのに、大いに熱心であることを期待されるのは当然であった。」（同上 273）

「阻止できたかも知れない悪については、われわれ自身がその行為に罪があるかのようにわれわれに責任があるのである。」（各時代の希望中巻 222）

4. わたしたちの確信によって立ち

- a. どのように神はネヘミヤを助けて、民の良心を自分たちの結婚関係における断固とした改革の必要性に目覚めさせてくださいましたか（ネヘミヤ 13:23-27）。

「このような律法に背いた〔雑婚や偶像礼拝者との交わりからの〕結合は、イスラエルに大きな混乱を引き起こした。こうした縁組を結んだ者の中には、人々が勧告を求め、安全な模範として見上げるべき高い地位の人、つかさたちがいた。ネヘミヤはもしこの害悪が続いたならば、どのような破滅が国家を襲うかを予知して、熱心に悪者たちに訴えた。……

彼が人々の前に神の命令と警告とを示し、この罪そのもののゆえに過去においてイスラエルに下った、恐るべき刑罰を示したときに、彼らの良心は目覚めて改革の働きが起こり、警告を発せられていた神の怒りは取り去られ、神の嘉納と祝福が与えられたのである。」（国と指導者下巻 273,274）

- b. ネヘミヤは人間的な弱さから、主のぶどう畑の働き人が決してすべきでないどのような一つのことをしましたか（ネヘミヤ 13:25）

「改革は後退ではなく、前進しなければならない。それは断固として、確固として、決然として、ひるまないものでなければならない。しかし、堅固さが、暴威をふるう精神へと墮落してはならない。」（教会への証 6 巻 151）

- c. 大祭司エリアシブ、彼の息子、そして彼の孫が祭司職にふさわしくない者となった主な理由は何でしたか（ネヘミヤ 13:28, 29）。意見はあっても罪の自覚はない人々に何が起こりましたか（マタイ 15:14）。

「聖職についていた者の中には、異邦の妻と別れることができないと言って、彼らのために嘆願する者もあった。しかし特別な措置は与えられなかった。階級や地位に対する考慮は払われなかった。祭司やつかさたちのうちで偶像礼拝者との離別を拒んだ者は、直ちに主の奉仕から引き離されたのである。悪名高いサンバラテの娘と結婚した大祭司の孫は、職を解かれただけでなく、直ちにイスラエルから追い出された。」（国と指導者下巻 274）

5. 今日わたしたちのための教訓

- a. エズラとネヘミヤの働きから、わたしたちはどの教訓を学ぶべきですか（イザヤ 57:12-14; ローマ 15:4）。

「今日推進されるべき改革の働きにおいて、エズラやネヘミヤのように、罪の軽減も、言い訳もせず、恐れずに神の栄誉を擁護する人々が必要である。この働きの重責を担う人々は、悪が行われる時に沈黙したり、偽りの慈善という衣で、罪悪を覆ったりはしないのである。彼らは神が公平なかたであることを思い出し、数名を厳格に処罰することは、多くの人々を救うことを思い出す。そしてまた彼らは、悪を譴責する者は、常にキリストの精神をあらわすべきであることを忘れないのである。

エズラとネヘミヤはその仕事を行ったときに、神の前にへりくだって自分たちの罪と民の罪を告白し、自分たちが罪を犯した者であるかのように赦しを求めた。彼らは忍耐強く働き、祈り、苦難に耐えた。」（国と指導者下巻 275）

「回復と改革の働きは、この地上歴史の最後の時代に行われるべき、霊的回復の働きの情景を示している。……

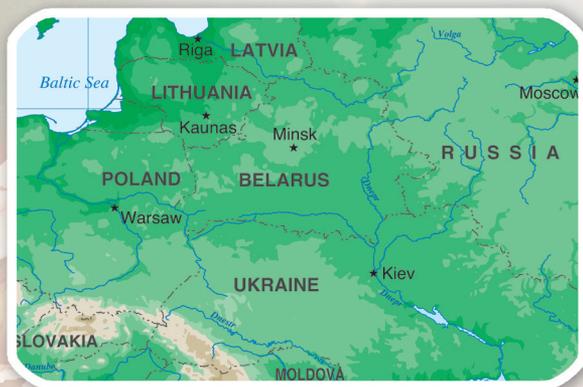
しかし神は、彼らによって、神ご自身とその律法についての知識を地上に示そうとなさった。……

終末時代に、神のすべての制度が回復される。人間が安息日を変更したときにできた、律法の破れが回復される。神の残りの民は改革者として世の前に立ち、神の律法がすべての永続的改革の基礎であって、第四条の安息日は創造の記念であり、常に神の力を思い起こさせるものであることを、示さなければならない。彼らは明白な言葉で、十誡のすべての戒めに服従する必要を示さなければならない。彼らはキリストの愛に動かされて、キリストと共に力を合わせて、荒れすたれた所を復興しなければならない。彼らは、破れを繕う者、市街を繕って住むべき所となす者、とならなければならないのである（イザヤ書 58:12 参照）」（同上 276, 278）

個人的な復習問題

1. ネヘミヤはどのように改革の努力を促進しましたか。
2. 安息日遵守はどのように回復されましたか。
3. 神はすべての時代に現代の真理を持っておられます。今日結婚の神聖さと維持に関してこのお方のみ旨は何でしょうか。
4. わたしたちの時代に、エズラとネヘミヤの経験はどのように関連があるか説明しなさい。
5. わたしたちはみなキリストの証人として、どの質問を自ら問うべきですか。

第一安息日献金



7月5日

東ヨーロッパの出版の働きのために
(4ページ参照)

8月2日

コンゴ民主共和国の伝道学校
のために
(25ページ参照)



9月6日

ナミビアの本部のために
(53ページ参照)

